

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

新潟県 湯沢町

自治体名 : 新潟県湯沢町

担当課名 : 湯沢町教育委員会教育課

電話番号 : 025-784-2211

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	357.3 km ²
人口	8,063 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	141 人
部活動数	10 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、湯沢町の部活動は、陸上部、バスケットボール部、野球部、女子バレーボール部、男子テニス部、女子テニス部、卓球部、スキー部、吹奏楽部、文化部と10種で活動している。

令和4年度に指導者を募集し、令和5年度から、学校部活動の「部活動指導員」として、また、学校外活動の「地域指導員」として、教員に代わり主に週末の指導を行っている。

湯沢町の改革は、国のガイドラインに沿って、まずは休日の部活動の地域移行を段階的にスタートした。

しかし、地域移行を、部活動の単なる地域スライド

とするビジョンでは、生徒数の減少や指導者のライフワークバランスだけをとっていても、持続可能な活動とはならない。

今後の課題としては、湯沢町で学校部活動がなくなった後、子どもたちのスポーツ活動をどのようなものにしていくのか、また、どのようなかたちが湯沢町では実現可能なのかといったビジョンを明確にするとともに、どこまで町が支援し、どこまで受益者に負担してもらうのかを保護者の理解を得ながら、軌道修正しつつシステムを構築していく必要がある。

1 湯沢中の過去3年間の推移

湯沢中においては、ここ数年部員数の減少により活動に支障のある部活がある。

	R4年	R5年	R6年春	R6年秋	備考
生徒数	139	132	141	141	*毎年転出入が多く、変動あり
陸上部	17	16	14	6	駅伝には男女とも他の部から助っ人あり
バスケ部	7	8	10	6	けが人のため新人大会を棄権した
野球部	7	9	8	7	新人大会は塩沢中1年9人と合同で参加
バレー部	15	12	15	13	特記事項なし
テニス部男子	19	14	15	11	
テニス部女子	16	16	13	9	
卓球部	12	9	17	14	
スキー部	7	8	7	7	
吹奏楽部	13	7	7	6	少人数でのコンクール出場となる
文化部	9	18	16	10	

出典：令和6年度第2回湯沢町部活動検討委員会資料

【課題】

湯沢町の現状にマッチしたビジョンで進んでいない。

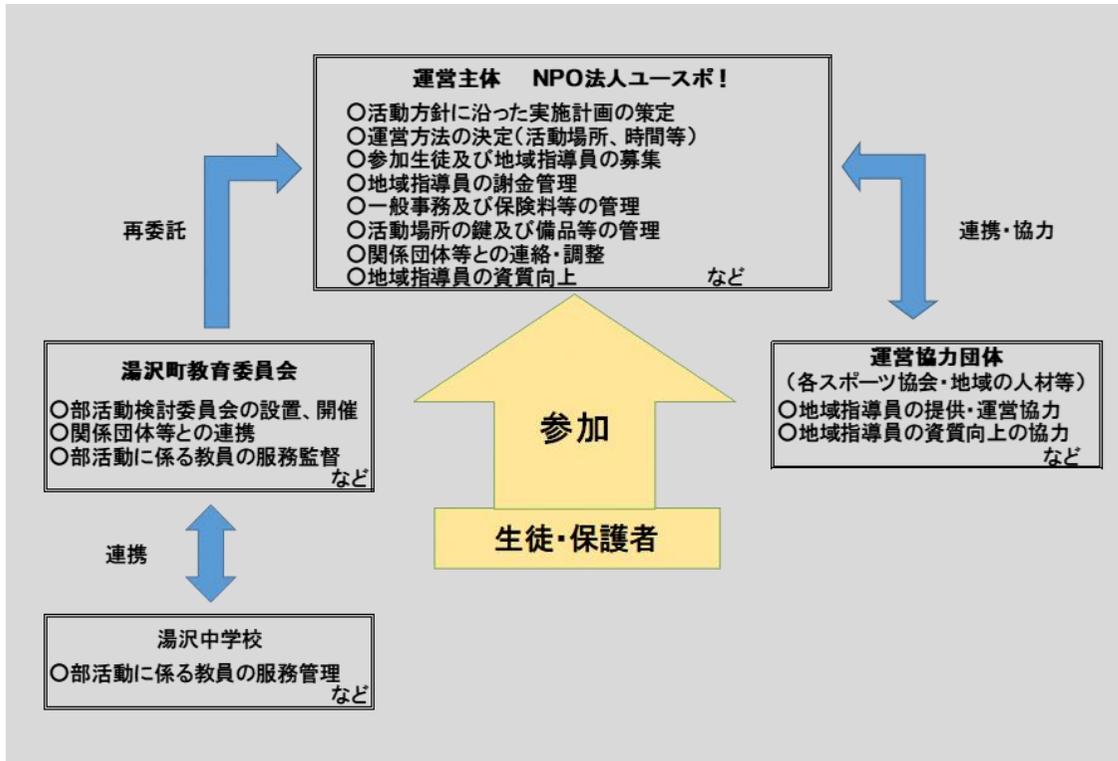
少ない参加者のなか、専任講師をやるとえば可能！？

持続可能な活動形態とは？

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・部活動検討委員会の設置、開催
- ・部活動検討委員会作業部会の設置、開催
- ・関係団体との連携
- ・部活動に係る教員の服務監督

◎首長部局

- 湯沢町では教育委員会に置いてスポーツ行政を担当
- 首長部局としては必要に応じ協力・連携

年間の事業スケジュール

令和6年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生地域クラブ活動体制整備事業業務委託契約 ・地域部活動ミーティング&研修会
令和6年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会作業部会
令和6年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会作業部会
令和6年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会 ・救急法講習会
令和6年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会作業部会
令和6年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会
令和6年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会作業部会 ・指導者募集
令和6年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会作業部会 ・おたより配布(学園)
令和7年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会作業部会
令和7年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生地域クラブチラシ配布
令和7年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動検討委員会 ・次年度中学生地域クラブ参加者募集、受付 ・おたより掲載(町広報紙) ・委託経費決算、成果報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	6クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		6クラブ（7部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	4人（運営団体職員）

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
中学生地域クラブ	総合型地域スポーツクラブ	野球	月0-3回	8:30-11:30	1年 3 2年 3 3年 1	4～3月	湯沢学園	1人	0人 ※種目毎の運営スタッフの配置はない ※卓球は湯沢町社会教育関係団体のピンポンクラブ所属のボランティアが時折指導に協力	保険料 800円/ 年間	中体連：部活動 その他：部活動
		女子テニス	月0-1回	8:30-11:30	1年 4 2年 2 3年 2		湯沢学園	1.5人			
		男子テニス	月0-2回	8:00-11:00 13:00-16:00	1年 6 2年 1 3年 3		湯沢学園	1.5人			
		陸上	月0-1回	9:00-11:00	1年 2 2年 2 3年 6		湯沢学園	4人			
		女子バレーボール	月1-16回	8:30-11:30 16:15-17:00	1年 7 2年 5 3年 3		湯沢学園 旧土樽小学校 湯沢加チャセンター	2人			
		卓球	月0-11回	8:30-11:00 16:30-18:30	1年 10 2年 4 3年 3		湯沢学園 湯沢加チャセンター	1人			

③その他、体験会やイベント等の開催実績 既存のジュニアチームとの合同練習や、ジュニアチームの活動時間とつなげて練習等が行われている。

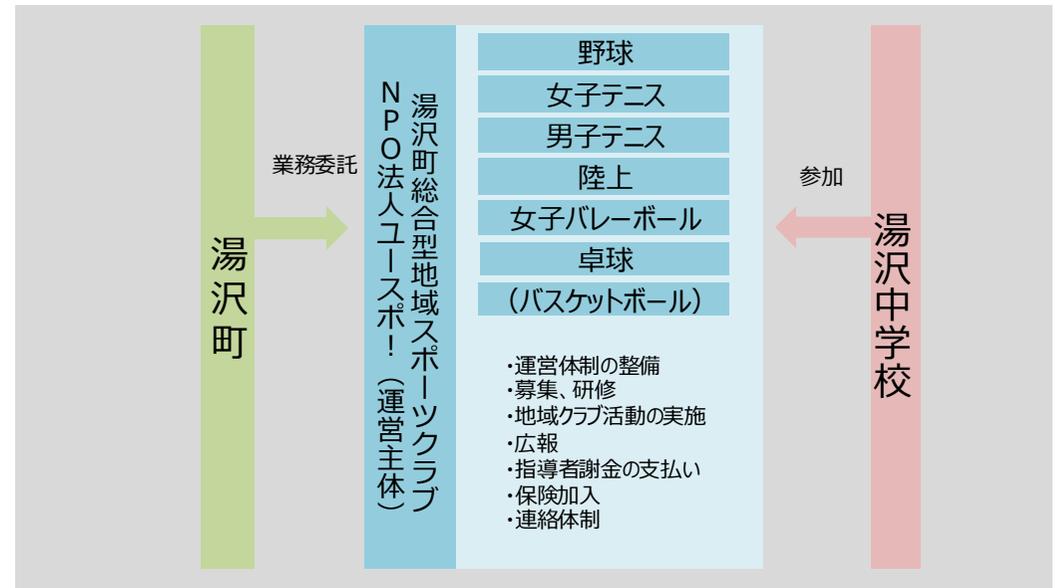
2.実証内容と成果

主な取組例

●中学生地域クラブ[※] 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、女子テニス、男子テニス、陸上、バレーボール、卓球
運営団体名	NPO法人ユースポ!
期間と日数	野球：女子テニス：男子テニス：陸上：バレーボール：卓球 /4-2月中
指導者の主な属性	地元住民、町スポーツ協会メンバー
活動場所	湯沢学園、旧小学校、湯沢加チャセンター
主な移動手段	車・徒歩
1人あたりの参加会費等(年額)	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり： 65歳未満 1,850円/年 65歳以上 1,200円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 運営団体理事・クラブマネージャー 各1名
役割：中学生地域クラブの受託に係る事業全般の統括を行う
- 運営団体職員 1名 パート 1名
役割：中学生地域クラブの運営事務を行う
- 指導者 11名
役割：現場責任者として、教室運営及び指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

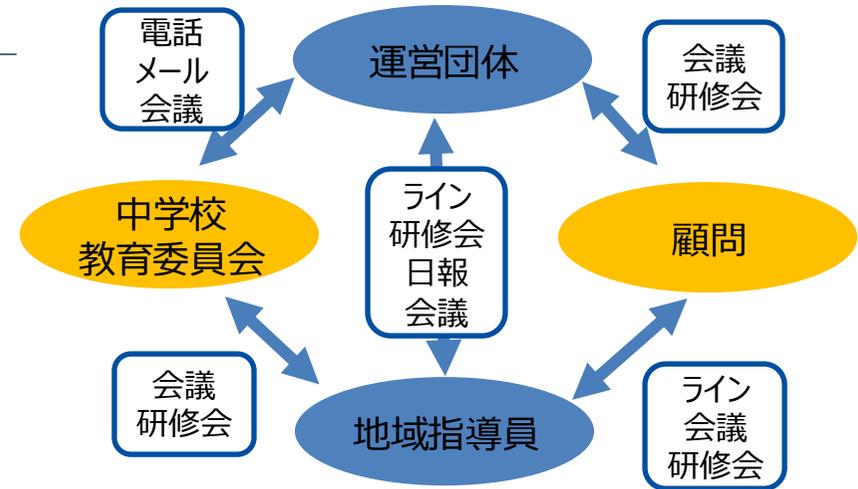
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・「部活動」と「地域の活動」の実施日が混在しているため、「顧問」「部活動指導員」「地域指導員」はラインで情報共有する。
- ・教員の異動が毎年あるため、年度初めに顔合わせと研修を兼ねたミーティングを行い連絡先を交換する。
- ・地域指導員と運営団体との連絡ツールとしてラインを使用し、研修案内、活動報告のリマインドを行う。
- ・部活動検討委員会のプレ会議として「作業部会」を開催する。

取組の成果

- ・最初の研修会が顔合わせ及びライン交換の場となる。さらに、中学校から、「中学生を指導するにあたって留意する点」や「自身の指導経験から得た事柄」について講演いただき、年度当初の活動として、普段中学生と接触がない地域指導員にとって有意義な研修となった。
- ・ラインで文書を共有するため、印刷・郵送費のコスト削減につながっている。
- ・部活動の地域展開を主導する「教育委員会」、運営団体の「ユースポ!」、改革の場となる「中学校」の3者に、必要に応じ地域指導員を加え、コアなメンバーで行う作業部会を開催することで、解決すべき問題の共有ができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

現場から上がってくる問題を関係各所に伝達し、また、会議の場で問題提起し解決につなげた。(例：顧問との活動予定の共有問題、生徒の出入り口の問題、カギ施錠の問題、セコムの問題等) また、地域移行(展開)の勉強会を開き、部活動検討委員会のメンバーや地域指導員、町議会議員を招き、周知・情報共有と町に適した改革につながるよう努めた。

今後の課題と対応方針

今年度は「作業部会」により、町・学校・運営団体の連携が昨年度より強化した。開始2年目で、解決すべき問題点が浮かび上がってきた。実際に実行して見えてくるものも多い。今後はさらに連携を強化し、必要な部分は軌道修正しつつ、地域に合った適切な地域展開を推進し、また、周困への周知を徹底し、理解を得ながら進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・部活動検討委員会で策定された地域指導員の募集要件により募集。運営団体のホームページで常時募集を明示するほか、冬期前に次年度に向けチラシ・広報等による募集キャンペーンを行う。
- ・部活動検討委員会で策定された地域指導員の選定委員により選定。
- ・中学生地域クラブの指導員に対し、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。
- ・中学生地域クラブの指導員と学校の部活動顧問との打ち合わせ会を定期的に開催し、生徒の参加状況などについて情報交換を行う。



地域指導員

- ・野球 1名
 - ・テニス 3名（有資格2名：JSPO公認スポーツコーチングリーダー、JSPO公認テニスコーチⅠ）
 - ・陸上 4名（有資格者1名：JAAFジュニアコーチⅠ）
 - ・バレーボール 2名（有資格者1名：JSPO公認バレーボールコーチⅠ）
 - ・卓球 1名
- 属性：会社員、会計年度任用職員、フリーランス、自営業、その他

研修案内

7件

- ・公認コーチングリーダー養成講習
- ・中学生の多様なスポーツ推進ミーティング
- ・運営団体ミーティング（地域指導員2名参加）
- ・新潟県スポーツ指導者研修会
- ・スタートコーチ養成講習会
- ・スポーツ・インテグリティ研修会（アンガーマネジメント）
- ・指導者スキルアップ講座（Woman's health）

研修開催

3件

- ・指導者研修会兼打合せ
- ・救急法講習
- ・地域移行（展開）勉強会

資格取得

1名

- ・JSPO公認バレーボールコーチⅠ取得

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容と実績

- ・4/4指導者研修会（地域指導員7名、顧問11名参加）
講演：指導で大事にしていること～中学生の心と体～
講師：湯沢中学校・教頭 山本伸寿氏
内容：「中学生を指導するにあたって留意する点」や「自身の指導経験から得た事柄」を中学校教頭から講演
- ・7/23救急法講習会（地域指導員7名参加）
普通救命講習Ⅰ受講
内容：心肺蘇生やAEDの使い方を学ぶ
- ・1/16地域移行勉強会（地域指導員2名参加）
講演：「部活動の地域移行（地域展開）が目指しているものは？
～結局湯沢町ではどうなるのがゴール？～」
講師：新潟医療福祉大学教授・副学長 西原康行氏
内容：部活動検討委員会のメンバーや地域指導員が部活動の地域移行のビジョンを共通認識するための勉強会

受講者の声

- ・4月に開催した指導者研修会では、普段中学生とコンタクトがない地域指導員にとって、今どきの中学生とどのように相対すればよいのか、教頭の長い指導経験から得た教訓等を共有いただき、有意義な研修となった。
- ・7月に開催した救急法講習は、5年に一度改正されるため、久しぶりの受講者にとってはアップデートとなる講習になった。また、本業でなかなか時間が取れない地域指導員の要望により、出席しやすい夜7時から60分の設定で、地元の消防署に申し込み講習を開催した。
- ・1月に開催した地域移行の勉強会は、アンケートから「講演が参考になった」「地域展開のビジョンがなんとなく見えた」などの回答が得られた。

取組の成果

指導者募集を随時掲載しているため、時折問い合わせがある。また、今年度1件の新規採用があった。資格取得の助成により、1名資格を取得したことは大きい。また、多感な年齢であり、精神的にも身体的にも成長期の中学生の指導にあたり、学校関係者から生きた講演をいただくことで良い研修となった。

今後の課題と対応方針

安定的な活動の実施、地域指導員一人に対する負担の軽減などから、複数人の指導者を確保するため、積極的な募集を行う。また、指導経験はあるが、指導資格がない指導者が多く、ハラスメント講習やSNSの注意点など、昔と変わったツールやルールについて研修を行う。また、それらの研修をシステム化し、運営団体に構築する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

教育委員会、町スポーツ協会、スポーツ少年団、学校運営協議会、中学校、PTA、地域指導員、部活動顧問、運営団体を構成メンバーとする、「部活動検討委員会」を継続。

各組織が連携して湯沢町の部活動の地域展開について考え、活動方針を了承・決定し、運営体制の整備が進むよう連携する。



会議実績

5/28	第1回作業部会	中学校校長、運営団体2名、教育課2名参加
6/4	第2回作業部会	中学校校長、運営団体1名、教育課2名、地域指導員3名参加
7/9	第1回部活動検討委員会	関係者20名参加
9/5	第3回作業部会	中学校校長・教頭・顧問、運営団体2名、教育課2名、地域指導員3名参加
10/10	第2回部活動検討委員会	関係者19名参加
11/13	第4回作業部会	中学校校長・教頭・顧問、運営団体1名、教育課2名、地域指導者3名参加
12/24	プレ作業部会	中学校校長・教頭・顧問、運営団体2名、教育課3名、地域指導員1名参加
1/23	プレ作業部会②	中学校校長・教頭・顧問、運営団体1名、教育課3名、地域指導者3名参加
3/6	第3回部活動検討委員会	開催19名参加



取組の成果

改革を主導する「町」、改革の場となる「学校」、運営団体の「ユースポ！」の三者により、部活動検討委員会前に「作業部会」を頻回に開催することで、連携が強化された。また、開始2年目で明確化した問題点を、現実的な視点で検討することができた。

今後の課題と対応方針

まずは部活動の地域展開について理解し、作業部会において実現可能で実態に即した案を検討する必要がある。さらに部活動検討委員会で多角的な視点で精査し、各組織へ情報共有を行い理解を求めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

中学生人口が年々減少するなか、地域指導員の中には既存の小学生チームを指導している者もいる。

地域スポーツクラブとして小学生と中学生を一緒に指導することや、既存の大人のクラブチームや社会教育関係団体等と一緒に活動することなど、今後、年齢の枠を超えた運動機会創出の可能性を模索する。

小中合同練習・継続練習の詳細

種目	詳細	指導者数	会場	実施回数
バレーボール	小学生チーム「Jr女子バレーボール」と「中学生地域クラブ」が同じ会場、同じ時間に練習	指導者 各1名	旧土樽小学校体育館	4回
卓球	年長から中学生まで対象の「Jr卓球」と「中学生地域クラブ」が同じ会場で時間をつなげて練習	指導者 共通1名	湯沢カルチャーセンター小ホール	8回
陸上	地域の陸上チーム「アクティブ」と「中学生地域クラブ」が合同練習	指導者 共通2名	湯沢学園	1回



小中合同練習に関する指導者の声

- 1 中学生が小学生に指導することにより、自身の技術や理解度を認識できることがプラスとなる。
- 2 その指導する姿を見ながら指導者が、自らの日々の取組を振り返ることができる。
- 3 小学6年生と中学生のチーム編成を行うなかで、半年から1年後のチーム構想のヒントを得ることができる。
- 4 ジュニアの指導者に、様々な練習方法を知ってもらう機会となる。 等々

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

既存の小学生チームと中学生地域クラブの指導者が同じ場合、小中一貫性のある指導ができ、参加人数が増えることで活動の幅が広がる。小学生は中学生と一緒に練習することにより、刺激を受けモチベーションが上がる。

小学生チームと中学生地域クラブの指導者が別々の場合は、指導する大人の数も増えるため、安全面での保証が期待できる。

また、今年度から正式に発足した「Jr卓球」は、社会教育関係団体の「ピンポンクラブ」や保護者の参加・協力を得て、幼児から高齢者までが卓球に取り組む教室となっている。この形態は、また、部活動の地域展開とは別枠で進行しているが、地方における持続可能な地域スポーツクラブのかたちとして期待できる。



Jr卓球の中学生メンバーが
準備体操の係

多世代で練習



今後の課題と対応方針

既存の社会教育関係団体や小学生チームと中学生地域クラブが融合し多世代で活動することは、少子化や過疎地のスポーツ環境維持の形態として期待できる反面、部活動の地域展開が、部活動の地域へのスライドといった考えが根深くあることから、中学生以外のメンバーが参加している時点で、事業の対象外と判断される。そのことが、学校施設や町バスの利用、現在学校部活動が得ている町補助金や後援会費などの移譲についての理解を阻害している。また、既存のチームとの融合を進めても、融合後のチームにどこまで部活動の地域展開の事業費を充てることを認めることができるのかなど、検討し決定しなければならない事項が多く存在する。今後は、部活動の地域展開が地域の生涯学習に結び付くことを共通認識し、開始2年で見えてきた課題を解決していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- 令和6年度は、受益者負担を昨年同様保険料800円/年のみとした。
- 持続可能な運営を見据え、活動に必要な経費を明らかにする。
- 受益者負担と公的資金の適切な設定について検討する。
- 平日部活動の地域展開を見据え、資金を確保する仕組みづくりを行う。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

令和5、6年度は、種目ごとに個々のチームとしての運営は行っていない。運営団体の一教室「中学生地域クラブ」として、各種目まとめて運営団体が直接運営を行っている。事務に関するインフラは、既にある運営団体のものを利用。練習にかかわる備品は、学校備品を利用している。現在のところ、かかったイニシャルコストは、「学校会場を出入りするための合鍵の作製費」や「実績報告のための文房具の購入」、「ファーストエイドキット」をそろえた程度である。今後、種目ごとにチームとして代表・会計・事務を置き、規約等を定め、個々に教室運営を行い、運営団体の業務を広報、受付、統括業務とした場合にも、イニシャルコストはあまりかからないものとする。しかし、運営団体の事務所が町所有施設の間借りのため、部活動の地域展開や地域の生涯学習の観点から利便性を重視し、学校敷地内等へ事務所移転となった場合には、事務局整備のイニシャルコストがかかる。

■ランニングコストの分析

現在は、ランニングコストがほぼ指導者謝金のみであるが、地域展開が進むと以下の出費が考えられる。

- ・人件費：種目ごとにチームとして代表・会計・事務を置き、規約等を定め、個々に教室運営を行う場合、人件費がかかる。
- ・会場費：現在学校の第1体育館の夜間開放は行われていない。今後、夜間の平日の活動が増えた場合、会場費がかかる可能性がある。また、冬期は積雪のある地域のため、校庭が使えない。そのため、学校の体育館は取り合いとなるため、学校が使えない種目が、町の有料施設で練習する例も増える可能性がある。無償や減免となった場合も、有料施設の貸館業を圧迫することになったり、有料客が優先となり会場が使えない場合もあり得る。
- ・消耗品費：現在練習にかかわる備品は、学校のものを利用しているが、今後これらの備品の購入費がかかる。
- ・大会、試合参加費：今後大会、練習試合の活動が増えた場合、大会参加費や交通費がかかる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



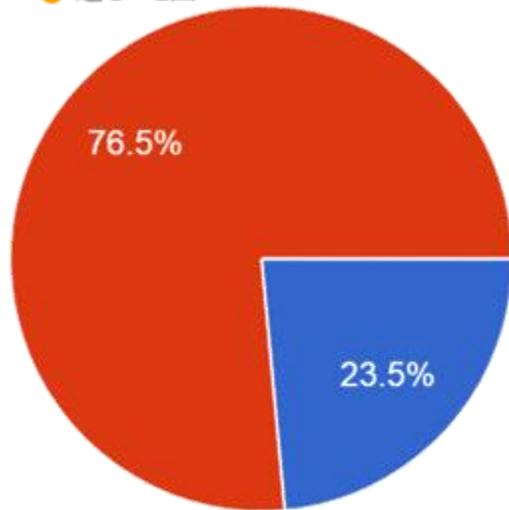
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

令和5、6年度と地域スポーツクラブを実施したが、活動範囲が流動的で安定していないため、受益者負担額を試算するまでに至らなかったが、保護者アンケートの結果によると、費用負担は2,000円以下/1か月が妥当とする考えが7割だった。また、実施回数は週3～5回が7割以上だった。

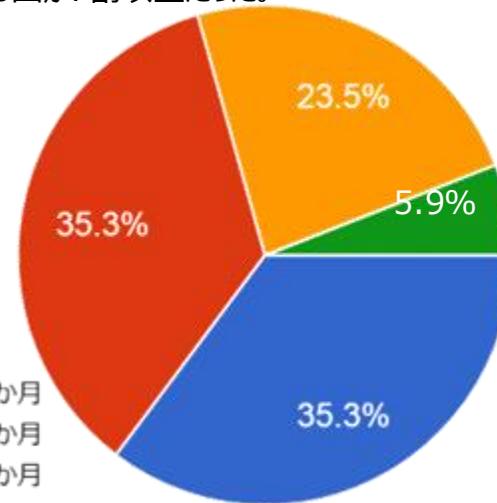
- 出来るだけたくさん活動したい
- 週3～5回
- 週1～2回



- ～1000円/1か月
- 1000～2000円/1か月
- 2000～4000円/1か月
- 4000～6000円/1か月
- 6000～8000円/1か月
- 8000円～/1か月

出典：ユースポ！実施アンケート（保護者回答17件）
 質問⑦お子様の部活動やクラブ活動の参加費が発生する場合、妥当だと思ふ金額をご回答ください。

出典：ユースポ！実施アンケート（保護者回答17件）
 質問⑥お子様の部活動やクラブ活動の頻度について希望をお答えください。



R5年度	申込	練習回数	大会練習試合	謝金費用(研修等含む)	会場費
バレーボール	14	13		124,800	0
女子テニス	11	10		67,050	0
卓球	7	16		79,050	0
男子テニス	11	8		46,050	0
野球	10	13		69,750	0
陸上	14	11		87,300	0
吹奏楽	1	7		36,750	0
	67	78	0	474,000	0

※基本的に1か月のうち休日の1日を地域スポーツクラブで実施
 大会参加等はなし

R6年度	申込	練習回数	大会練習試合	謝金費用(研修等含む)	会場費
バレーボール	15	36		123,375	0
女子テニス	8	0		5,250	0
卓球	17	39	1	190,003	34,125
男子テニス	10	16		107,250	0
野球	7	9		45,750	0
陸上	10	9		91,500	0
吹奏楽	6	7		21,000	0
	73	109	1	584,128	34,125

※基本的に1か月のうち休日の1～2日を地域スポーツクラブで実施
 大会参加等はなし
 一部平日もできる種目は平日も実施

出典：ユースポ！作成資料

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

収支バランス

出典：ユースポ！作成資料

参加者数	参加費月	参加費年間	年間収支（実施回数毎）				
			平日3回 休日1回	平日2回 休日1回	平日1回 休日1回	休日1回	平日1回
1	1,000	12,000	-636,000	-492,000	-348,000	-204,000	-132,000
2	2,000	24,000	-624,000	-480,000	-336,000	-192,000	-120,000
3	3,000	36,000	-612,000	-468,000	-324,000	-180,000	-108,000
4	4,000	48,000	-600,000	-456,000	-312,000	-168,000	-96,000
5	5,000	60,000	-588,000	-444,000	-300,000	-156,000	-84,000
6	6,000	72,000	-576,000	-432,000	-288,000	-144,000	-72,000
7	7,000	84,000	-564,000	-420,000	-276,000	-132,000	-60,000
8	8,000	96,000	-552,000	-408,000	-264,000	-120,000	-48,000
9	9,000	108,000	-540,000	-396,000	-252,000	-108,000	-36,000
10	10,000	120,000	-528,000	-384,000	-240,000	-96,000	-24,000
11	11,000	132,000	-516,000	-372,000	-228,000	-84,000	-12,000
12	12,000	144,000	-504,000	-360,000	-216,000	-72,000	0
13	13,000	156,000	-492,000	-348,000	-204,000	-60,000	12,000
14	14,000	168,000	-480,000	-336,000	-192,000	-48,000	24,000
15	15,000	180,000	-468,000	-324,000	-180,000	-36,000	36,000

参加費1000円の場合

参加者数	参加費月	参加費年間	年間収支（実施回数毎）				
			平日3回 休日1回	平日2回 休日1回	平日1回 休日1回	休日1回	平日1回
1	2,000	24,000	-624,000	-480,000	-336,000	-192,000	-120,000
2	4,000	48,000	-600,000	-456,000	-312,000	-168,000	-96,000
3	6,000	72,000	-576,000	-432,000	-288,000	-144,000	-72,000
4	8,000	96,000	-552,000	-408,000	-264,000	-120,000	-48,000
5	10,000	120,000	-528,000	-384,000	-240,000	-96,000	-24,000
6	12,000	144,000	-504,000	-360,000	-216,000	-72,000	0
7	14,000	168,000	-480,000	-336,000	-192,000	-48,000	24,000
8	16,000	192,000	-456,000	-312,000	-168,000	-24,000	48,000
9	18,000	216,000	-432,000	-288,000	-144,000	0	72,000
10	20,000	240,000	-408,000	-264,000	-120,000	24,000	96,000
11	22,000	264,000	-384,000	-240,000	-96,000	48,000	120,000
12	24,000	288,000	-360,000	-216,000	-72,000	72,000	144,000
13	26,000	312,000	-336,000	-192,000	-48,000	96,000	168,000
14	28,000	336,000	-312,000	-168,000	-24,000	120,000	192,000
15	30,000	360,000	-288,000	-144,000	0	144,000	216,000

参加費2000円の場合

支出を謝金のみ、収入を参加費のみとし、謝金単価1,500円/1h、活動時間を平日2h、休日3h、指導者1名とした場合の年間収支を大まかに計算すると以上ようになる。アンケートでは、月の負担額は2,000円以下が妥当が7割だったが、休日1回3hの活動でも参加者が9人以上でないと指導者1名分の謝金を賄えない試算となる。町内中学生の人数が、令和6年度141名といったことから考えても、受益者負担で採算をとるのは難しいのがわかる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等④

取組の成果

令和6年度の取り組みとして、以下項目を挙げていた。

- 持続可能な運営を見据え、活動に必要な経費を明らかにする。
- 受益者負担と公的資金の適切な設定について検討する。
- 平日部活動の地域展開を見据え、資金を確保する仕組みづくりを行う。

しかし、部活動の地域スライドという形で土日の移行が進んではいるものの、「持続可能な運営」が見えないままそれを模索し、運営自体が流動的に進んでいる現状がある。そのため、活動に必要な経費を明らかにすることや、受益者負担と公的資金の適切な設定を検討するには至らない状況となっている。

当初、部活動の地域移行とは、地域の指導者を部活動に派遣すればよく、運営団体とは派遣業の代行といった考え方もあったが、この4年間で、派遣業から地域で持続可能な新たなスポーツ環境を構築する事業という認識が徐々に浸透してきた。派遣業と新システム構築では、大分経費も変わる。湯沢町では、どのようなかたちの地域展開をするのか決めていかなければ、持続可能な組織づくりは難しいということを共通認識している。この2年間実施した実績をもとに、ある程度のかたちを現実的に考える準備が整ってきた段階によやくたどり着いたと言える。

今後の課題と対応方針

これまで2年間実施してきた実績とおおよその試算により、「持続可能なスポーツ環境」を地方の町で構築・維持することは思った以上に経費がかかることが理解できた。これまで、教員がほぼ無償で行ってきたボランティア行為を、他の誰かが無償で肩代わりしない限り、謝金だけでも多額の経費がかかることが、15ページの表からわかる。町のスポーツ環境を重視し、町としてどこまで力を入れることができるのかをあらためて検討するなかで、受益者負担と公的資金の適切な設定が、令和7年度の課題と言える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

現在のところ、地域展開が、既存部活動の一部移行に留まっているため、学校施設の利用に関する共通理解は、疑問もなく得られている。さらに今後、地域展開が進み、既存の部活動から新しい地域活動へ改革が進んでも、学校施設、設備、備品などが使用できるよう共通理解を図っていく。

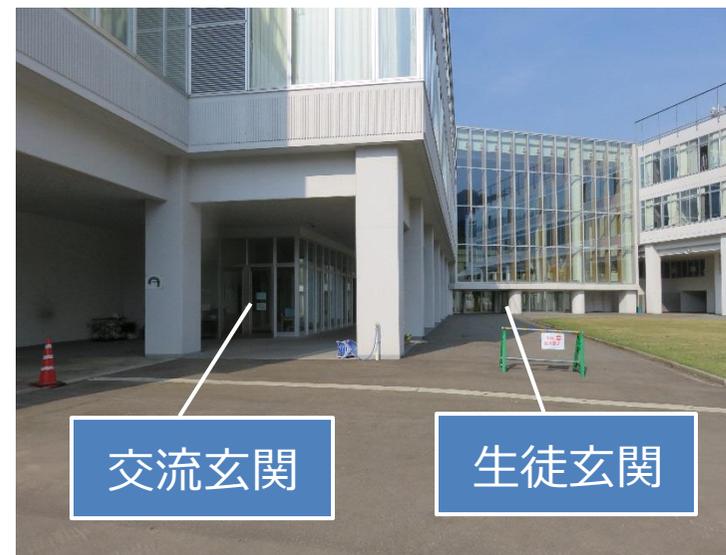
取組の成果

「学校の部活動停止期間中の地域活動」「夜間の地域活動」「保護者や地域住民等の中学生以外が活動に参加している地域活動」では、学校施設活用の認否について、問題が浮かび上がった。

これまで、課題に直面するたびに運営団体と地域展開を主導する教育委員会が協議・検討し、また学校とも連携し対応してきた。

さらに、関係各所が集まる「部活動検討委員会」のほか、特定の種目において少人数で開催する「作業部会」を招集し連携を図っている。しかし、結果的には流動的な運営となっていることは否定できない。

また、セキュリティ面では、「学校活動」と「地域活動」の動線を分け、徹底することは困難である。今後、地域展開が進むことで関係者が慣れていくことにより、また、運営団体が学園内に常駐し管理施錠などを行うことなどにより、この問題が解消されるのかを検討する必要がある。



湯沢学園：動線を分けて利用
地域部活動では交流玄関を利用、学校活動では生徒玄関を利用

今後の課題と対応方針

今後、地域展開が進み現存の部活動が「すべて地域活動となった場合」や「既存の部活動以外の種目を地域活動として加えた場合」、また、「中学生以外の者が参加者になった場合」には、部活動の地域スライドを狭義の意味として捉えることにより、学校施設の活用を認めないケースが懸念される。

そして、学校活動でない場合に、消耗品の購入、置き場、会場、移動手手段に至るまで、現在学校活動として認められ使用している財源や施設を運営団体がどこまで利用可能なのか、また、運営団体の会場管理や施錠委託の必要性などが、今後の課題と言える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

令和6年度の事業計画にはなかったが、一部の種目で平日の地域移行を実施した。また、現在では、中学生地域クラブを運営団体の一教室として各種目まとめて運営を行っているが、一部種目では代表・会計・事務を置き、規約等を定め、チームとして大会参加を視野に入れ、個々に教室の運営を行う動きもあることから、運営団体の業務が、広報・受付・統括業務に限定されることが期待できる。

取組の成果

平日練習の実績は下記表のとおり。

平日指導した指導員は卓球1名、バレーボール1名。

	平日練習回数 (4~2月)	平日練習時間 (4~2月)
卓球	15/32	43/93
バレーボール	20/36	25.75/74.75

出典：ユースポ！作成資料

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性：平日指導が可能な地域指導員は、定年退職などで現役を退いた指導者で、かつ、過去にその種目の指導に打ち込み、スポーツ指導に熱い人物。

指導の実績はあるが、指導者資格がなかったため、今年度助成を受けJSPO指導資格を取得した。

・配置の工夫：バレーボールの指導者は、会計年度任用職員として学校勤務している。「顧問」「部活動指導員」「地域指導員」と3つの肩書で指導を行っている。卓球の指導者は、「部活動指導員」「地域指導員」と2つの肩書で指導している。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

顧問と地域指導員は、4月初旬のミーティングで顔合わせを行いしライン交換する。顧問が指導計画をたて、地域指導員と共有することになっている。開始2年目で、大分仕組みに慣れてきた部分もあるが、一部顧問と連携が上手く行ってない種目もあり、学校のメール配信システムに地域指導員を加えるなどの対策が必要。

出典：ユースポ！実施アンケート（指導者回答10件）



今後の課題と対応方針

来年度、卓球については、全ての活動を地域指導員が担う計画となっているが、活動の仕組みが学校活動の範ちゅうにあることから、学校との連携は欠かせない。学校との連絡調整を現場の地域指導員が密に行うシステムが必要と言える。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

当町の改革は国のガイドラインに沿い、まずは休日部活動の地域移行から段階的にスタートした。

しかし、地域移行を部活動の単なる地域スライドとみるビジョンでは、生徒数の減少や本業を持つ地域指導員のライフワークバランスだけをとっていても、持続可能な活動とはならない。

また、指導者謝金と参加費の試算、保護者が考える妥当な受益者負担額からみても、想定される参加人数から、安定的な財源を確保していかなければ持続可能な活動としない。

開始2年が経過し、地域移行(展開)が単に部活動を学校外に移行(スライド)するといった事業ではなく、子供の活動機会を主軸に生涯学習も併せた地域の持続可能なスポーツ環境を構築して事業として理解されるようになってきた。

新しい仕組みの構築は簡単ではなく、ビジョンがぶれ、計画どおりにいかず、運営が流動的になることもある程度仕方ないと考える。修正しながら柔軟に改革を進め、最終的に地域のスポーツ環境が良い方向に向かうよう取り組んでいく。

●成果の評価

- ・「作業部会」により、町、学校、運営団体の連携が昨年度より強化した。
- ・資格取得の助成により、1名JSPO資格を取得した。
- ・精神的にも身体的にも成長期の中学生の指導にあたり、学校関係者の講演が良い研修となった。
- ・既存の小学生チームと中学生地域クラブの合同練習や社会教育関係団体との融合などの動きが、地方における持続可能な地域スポーツクラブのかたちとして期待できるようになった。
- ・明確で現実的な地域展開のビジョン設定が、経費試算の前提条件となる。計画が現実的でなければ、事業実施後の修正が多くなると思われる。
- ・学校施設の活用にあたってのハードルが明確になった。
- ・本業を引退した地域指導員であれば、平日の指導まで事業を拡大することが可能。

●今後に向けて

開始2年で見えてきた問題を整理し、3年目となる令和7年度で「地域展開のビジョン」を明確にし、それを進める上で「理解」の促進を図りたい。

令和8年度から良い「実施」のスタートが切れるよう、令和7年度はあらためて「準備」の年とする。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

中学生



●結果抜粋

- Q、地域クラブと部活動の区別について：区別できた、できないがおおむね半々。
- Q、地域の方の指導について：7割が満足でコメントも好印象。一部関心がない、また、コーチから否定される等気になるコメント有
- Q、活動日について：5割が平日も休日も活動することを希望しているが、土日は休みたい参加者も約3割いる。
- Q、参加目的：仲間と楽しく活動が5割以上、次に技能・技術を身につけたいが3割、2割弱が大会を目指したい。

●結果抜粋

- Q、生活への影響について：
顧問からは「週末家族と過ごせる」「自分の時間が増えた」等の声あり、逆に「生徒指導の面でフォローが必要な場面があった」との意見もあり。
地域指導員からは「生活に張りが出る」のほか「貴重な休日の自分時間が無くなる」という負担の声もあり
- Q、指導面で：専門的な技術指導だけではなく教育的指導や人間関係のトラブル等への懸念の声あり

顧問・指導者



保護者



●結果抜粋

- Q、地域クラブと部活動の区別について：区別できたが6割、去年は3割強に比べ大分改善。
- Q、地域の方の指導について：6割が満足。専門的な指導、熱心な指導を評価する半面、連絡が行き届かずわかりにくい、意見を聞かずにどんどん進める等の意見が気になった。
- Q、部活動のクラブ化について：あきらめ、期待、懸念あり
- Q、活動日について：平日も休日も活動が76.5%
- Q、活動の種目は、一つの種目に専念させたいが5割、いろんな種目を経験させたいは3割、他文化活動も欲しいとの意見有

広報資料

2025ユースポ! 中学生地域クラブ

指導者を募集しています!

あなたのスキルを地域指導者として生かしませんか?

バレーボール
野球
卓球
陸上
ソフトテニス
バスケットボール
吹奏楽

地元で育つ中学生が、地元でスポーツ文化活動をできる環境を一層につくらう!

募集要項	
活動内容	部活動顧問、部活動指導員、既採用の地域指導者と協働し、中学生のスポーツ・文化活動を指導する。 ●主な業務: ・参加者管理、活動報告 ・事故が発生した場合の現場対応 ・用具・施設の点検及び各種連絡・報告 指導者研修・会議への参加 その他中学生地域クラブの活動指導に関すること ●主な活動時間: 平日の放課後1~1.5h、週末2~3h (都合に合わせて要相談) ※複数指導者でのシフト制の場合あり ※大会・練習試合の引率がある場合あり
謝金	時給1,600円 ※交通費なし ※資格取得助成あり
資格要件	①ア~エのいずれかに該当する者。 ア、教員免許を有する者又は教員を退職した者。 イ、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者。 ウ、指導歴が3年以上ある者。(指導歴はないが、競技歴があるという場合はご相談ください) エ、湯沢スポーツ協会長の推薦を受けた者。(将来JSPC指導者資格を取得する) ②専門知識や技能を有し、生徒の健康面、安全面に配慮して、適切な指導が行える者。 ③生徒のスポーツ・文化活動の意義を理解するとともに、法令を遵守し、指導を意欲的に誠実に遂行できる者。 ④各種研修会に参加して自らの指導力向上に努める者。
応募方法	「履歴書」「銀行経歴」「指導経歴書」をご提出ください。 ※締切1月末 以降随時募集
応募の流れ	応募⇒選考⇒採否通知⇒業務委託契約 (年度更新)

ご応募・お問い合わせはお気軽にどうぞ!

NPO法人ユースポ!
(湯沢町総合型地域スポーツクラブ)

受付時間: 平日12:00~18:30

〒949-6102 新潟県南魚沼郡湯沢町神立628-1 湯沢カルチャーセンター内
☎025-785-2123 fax: 025-785-6911 info@youspo.net web: youspo.net

【指導者募集チラシ】

出典:ユースポ!

令和7年度中学生と保護者の皆様

2024年度2月

地元の指導員による地域の活動

2025年度 中学生地域クラブ

野球
ソフトテニス
バレーボール
陸上
吹奏楽
卓球
(バスケ)

高申込みは速く早め!
完全に地域移行するまでの間は、「部活」と「中学生地域クラブ」が並存します。上記部活動に参加する場合、中学生地域クラブの登録も必要となります。2025年度の中学生地域クラブへの登録は3/31から開始しますので、**2025年度の部活動がはじまる前**にお手続きを完了してください。

クラブ止ししていただきます
地域移行に伴い、クラブ化が進んでいく過程で、種目ごとに参加費や保護者による運営のお手伝い、送迎等のご協力をいただく場合があります。

クラブ直前のいいところ

仲間とコミュニケーション

クラブ活動は、特定の技能を伸ばすだけでなく、活動を通じた仲間やコーチとの交流からコミュニケーション能力をつちかかう機会になります。

技術と技能

野球が好き、テニスが好き、陸上が好き...その種目にたずさわってきた地元の指導員が、技術(やり方・コツ)を教え技能(スキル)を磨きます。

生涯スポーツ

若いころにおこなった種目は、未来で生涯スポーツとなり、健康的な身体維持やコミュニティを広げる宝物となります。

R7年度中学生地域クラブの活動なし地域指導員が見つかり次第スタートします!

部活動地域移行の経緯及び湯沢町の状況



対象	湯沢学園 令和7年度(2025年度) 7~9年生
活動場所	湯沢学園 (他、湯沢加好やせか、中央公園、その他)
活動時間	平日の放課後1~1.5h、週末2~3h ※完全に地域の活動に移行するまで、「中学生地域クラブ」と「部活動」の時間が混在します。 ※種目によって活動時間が異なります。また、9年生は部活動引退とは関係なく引退後も中学生地域クラブ活動に参加できます。
指導員	ユースポ! 地域指導員
費用	●スポーツ安全保険 全員加入 800円/年 (ユースポ! 会員登録済みの場合は不要) ※別途、大会参加費、試合や合同練習、会場費等の負担がかかる場合があります。 ※今後、地域活動への移行に伴い順次参加費が発生する予定です。
申込方法	申込用紙を費用を添えてご提出ください。申し込みはNPO法人ユースポ! 窓口 (湯沢カルチャーセンター) にて ※申込用紙はユースポ! 会員登録用を使用。ユースポ! のパンフレットに折り込まれています。
その他	●保護者の方に運営のお手伝いをお願いする場合があります。(役員、会計等) ・教室参加中のケガについては、傷害保険に加入し対応しますが自己負担が発生する場合があります。 ・広報活動、活動報告等のため写真を撮ることがあります。

お問い合わせ 受付時間: 平日12:00~18:30

NPO法人ユースポ! (湯沢町総合型地域スポーツクラブ)

〒949-6102 新潟県南魚沼郡湯沢町神立628-1 湯沢カルチャーセンター内
☎025-785-2123 fax: 025-785-6911 info@youspo.net web: youspo.net

参加募集チラシ

出典:ユースポ!

広報資料

要 保 険 加 入

中学生地域クラブ

部活動の地域移行による湯沢町の地域部活動



CAUTION

Q1、誰が加入するの？
★部活動に入っている人

【野球部】 【陸上部】 【卓球部】
【バレーボール部】 【男子テニス部】 【女子テニス部】 【吹奏楽部】

上記 部活動は月1回程度、「中学生地域クラブ」の活動日があります。
参加にはスポーツ安全保険への加入が必要です。

新中1年生は
部活動が決まり次第
お手続きをお願いします。

Q2、どこで手続きするの？
★ユースポ！で

湯沢カルチャーセンター内のユースポ！窓口でお手続きください(^^)

窓口受付時間：平日12:00～18:30

上記以外にも夜間教室がある日はスタッフがあります。
受付時間内に都合がつかない方はお電話でご相談ください。

ユースポ！パンフレットの中に
挟み込まれている、
「入会申込書」を
記入してお申込みください。



【保険加入促進チラシ】

出典:ユースポ！



部活動地域移行WEB
ホーム設置バナー



部活動地域移行WEBページ

出典:ユースポ！



広報資料

特集

かわらばん

スポーツ

情報

生活

学園

生涯学習

健康・医療

観光

2015コースポ! 中学生地域クラブ

指導者を募集しています!

あなたのスキルを地域指導者として生かしませんか?

あなたのスキルを地域指導者として生かしませんか?

バレー ボール 野球 卓球 陸上 ソフトテニス バスケット ボール 吹奏楽

地元で育つ中学生が、地元でスポーツ文化活動ができる環境を一層につくろう!

募集要項

※活動期間、部活動指導員、取組用の地域指導者と協働し、中学生のスポーツ・文化活動を指導する。

●主な業務:
 ・参加者管理、活動報告
 ・事故が発生した場合の現場対応
 ・用具・施設の点検および各種連絡・報告
 指導者研修・会場への参加
 ※その他中学生地域クラブの活動指導に関すること
 ●主な活動時間: 平日の放課後1~1.5時間、週末2~3時間 (都合に合わせて要相談)
 ※複数指導者でのシフト制の場合あり ※大会・練習試合の引当りがある場合あり

※謝金 時給1,600円 ※交通費なし ※資格取得助成あり

①アーエのいずれかに該当する者。
 ア、教員免許を有する者または教員を退職した者。
 イ、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者。
 ウ、指導歴が3年以上ある者。(指導歴はないが、競技歴があるという場合はご相談ください)
 エ、湯沢町スポーツ協会長の推薦を受けた者。(得点JSPQ指導者資格を取得する)

②専門知識や技術を有し、生徒の健康、安全に配慮して、適切な指導が行える者。
 ③生徒のスポーツ・文化活動の意義を理解するとともに、法令を遵守し、指導を意欲的に実践に実行できる者。
 ④各種研修会に参加して自らの指導力向上に努める者。

応募方法 「履歴書」「競技経歴・指導経歴書」をご提出ください。 ※締切1月末 以降随時募集
 採否の案内 応募→選考→採否通知→業務委託契約(年度更新)

ご応募・お問い合わせはお気軽にどうぞ!
NPO法人ユースポ!
 (湯沢町総合型地域スポーツクラブ)
 受付時間: 平日12:00~18:30
 〒949-6102 新潟県南魚沼郡湯沢町神立628-1 湯沢カルチャーセンター内
 ☎025-785-2123 fax:025-785-6911 info@youspo.net web:youspo.net

【指導者募集 12/22発行湯沢町広報掲載】

出典:ユースポ!

特集

かわらばん

スポーツ

情報

生活

学園

生涯学習

健康・医療

観光

冬のユースポ!

おやこで GENKI 教室・冬

ちびっこスキー体験
 小学校のスキー授業の前に、少しでも滑れるようになろう!
 ① 2月11日(火・祝日)、2月16日(日)
 ② 2月2日(日)、3月9日(日)
 午後3時~4時30分
 ※受付時間: 午後2時30分~2時50分
 (レンタル希望の方は午後2時30分にお越しください)
 ③ 岩原スキー場(ロッチ湖温泉側)
 ④ 1回500円 参加費はお子様のみです。
 (保護者の方は無料)
 ※ユースポが非会員は別途保険料(1回ずつ200円)がかかります。

⑤ スキーウェア等の防寒着、防寒靴、手袋、帽子、ゴーグル、お子様はスキー・スキー靴(レンタル有) スキー&ブーツセット800円 ※保護者の方は長靴でもOK

⑥ 年中さん~年長さんとその保護者
 定員 各回とも20名 先着順
 ⑦ 申込締切 各回とも2日前まで

筋力運動

筋内を使って筋力! 筋力!
 お金は使えませんが、筋肉は使おうと増えよう!
 筋力運動に積極的に取り組むことでやる気アップ!
 ① 2月27日、3月6日、3月13日、3月27日、4月3日
 (各木曜日) 午前10時15分~11時
 ② 湯沢カルチャーセンター
 ③ 1,500円(全5回)、1回ずつ参加 500円
 ※初めての方は別途筋力運動 250円
 ※料金は初回参加時にお支払いただきます。

④ ⑤ 動きやすい服装、内履き、飲み物、タオル、筆記用具、防寒着(靴にお持ちの方)
 ⑥ 申込締切 前日・までに電話・メール・ファクス・公式LINE・窓口にてお申込みください。その際、氏名・性別・年齢・電話番号をお知らせください。

中学生地域クラブ指導者募集!

あなたのスキルを地域指導者として生かしませんか?

地元で育つ中学生が、地元でスポーツ文化活動ができる環境を一層につくろう!
 詳しくはNPO法人ユースポ!までお問い合わせください。

① 「履歴書」「競技経歴、指導経歴書」をご提出ください。
 ※締切1月末 以降随時募集

申込 各種教室に参加をご希望の方は、コースポ!へお電話、メール、公式LINE、またはInstagramDMにてお申込みください。

NPO法人 **ユースポ!**
 〒949-6102 湯沢町神立628-1 (湯沢カルチャーセンター内)
 ☎025-785-2123 ● FAX025-785-6911
 ● メール info@youspo.net (受付時間 平日正午~午後6時30分)

ホームページ LINE Instagram

【指導者募集 1/26発行湯沢町広報掲載】

出典:ユースポ!

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ダブルス練習】



【小・中合同練習】



【審判講習】



【準備体操】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

		内容
令和3年度	9月30日	休日における中学校部活動の地域移行への協力をお願い
	10月7日	休日における中悪口部活動の地域移行について説明会
	1月7日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	1月26日	第2回湯沢町部活動検討委員会
令和4年度	4月14日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	6月13日	第2回湯沢町部活動検討委員会
	7月21日	第3回湯沢町部活動検討委員会
	10月24日	第4回湯沢町部活動検討委員会
	1月13日	第5回湯沢町部活動検討委員会
令和5年度	5月29日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	9月8日	第2回湯沢町部活動検討委員会
	3月5日	第3回湯沢町部活動検討委員会
令和6年度	5月28日	第1回作業部会
	6月4日	第2回作業部会
	7月9日	第1回湯沢町部活動検討委員会
	9月5日	第3回作業部会
	10月28日	第2回湯沢町部活動検討委員会
	11月13日	第4回作業部会
	12月24日	プレ作業部会
	1月23日	プレ作業部会②

準備期間

移行実施

●ステークホルダー

「町スポーツ協会」、「学校運営協議会」、「地域指導員」、「保護者」、「総合型地域スポーツクラブ」、「中学校」、「教育委員会」

●経過

令和3年度、運営団体への協力願い、関係各所への説明会からはじまり、部活動検討委員会の立ち上げ、令和5年度開始に向け協議。開始以降は、さらに地域展開を進めるための課題を協議している。

●実施にあたって生じた課題

「休日部活動の一部を令和5年までに地域に移行する」といった目的で検討が進んだが、既に学校部活動自体が持続可能でない状況だったため、そのまま地域に移行しても持続可能なかたちにはならない。その議論が解決しないまま、一部移行開始に必要な検討が進み、実施に至った。

●今後の展開

持続可能なかたちを検討する流れも出てきた。今後は、作業部会で現実的な検討を行い、さらに検討内容の周知を図り、関係者の理解と合意を得ながら改革を進めていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

2024年度 (R6)		2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9) 以降	
・休日の一部を移行 ・平日もできる種目は一部実施		・できるところからクラブチーム化 ・現状で継続が難しい種目は、各種目団体ごとに対応を協議	休日の部活動停止	完全移行に向けて、地元の人材、資源を生かし、方向を見失わず、できることをする	
中学生地域クラブとして 部活動の一部を運営団体が運営	既存部活動	野球	・野球協会を通じ、持続可能なかたちを検討 ・Jrチーム「フェニックス」との合体、大人のチームとの合体、広域チーム化検討	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が完全移行した後も、地域のスポーツ活動が失われないよう、持続可能なかたちを模索し維持する。 ・町の施設を有効活用し生涯学習を推進する。 ・中学生のみならず老若男女問わず活動でき、関われる形を作る。 ・競技化できる種目は競技化も検討する。 ・指導者を育てる、助成する。 ・無理のない相応の費用負担を求める。 	
		女子テニス	・男女混合、Jrチームとの合同、大人チームとの合同を検討		
		男子テニス	・クラブチーム化を検討 ・テニス協会を通じ、持続可能なかたちを検討		
		卓球	・クラブチーム化準備 ・Jr卓球との合体検討		・クラブチームとして発足
		陸上	・クラブチーム化準備 ・Jrクラブ「アクティブ」との合体検討		・クラブチームとして発足
		バレーボール	・広域チーム化検討、準備		
		(バスケットボール)	・指導者募集 ・愛好会としての運営も検討		
		(吹奏楽)	・指導員を通じ持続可能なかたちを検討		
		(文化部)	・地域移行外		
		スキー	・部活動と育成会の併存継続		
	水泳	・ユースポ!の教室として継続 ・競技水泳として運営できるか検討			
	検討、実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ★各種目ごとに、継続可能なかたちを検討、できるところからクラブチーム化。 ★部活動が使っていた資金、施設、設備等を運営団体が使えるよう調整。 ★どこまでを地域展開と認めるか、既存部活動以外の種目拡大の検討。 ★指導者募集継続。 ★検討事項は随時広報、情報共有し、理解を求める。 			

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

新潟県 津南町

自治体名：新潟県津南町

担当課名：津南町教育委員会

電話番号：025-765-3134

1.自治体の基本情報

基本情報

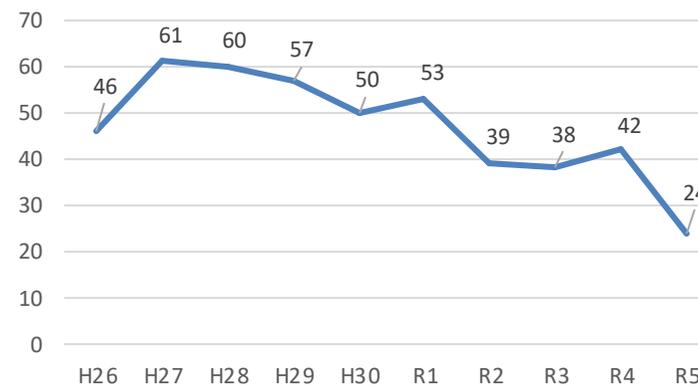
面積	170.21 km ²
人口	8,457 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	116 人
部活動数	8 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

津南町における出生数の減少が近年顕著にみられ、団体競技は特にチームとして成り立たないことが懸念される。一方で、教職員の働き方改革により、教職員が担当する部活動で当該競技の専門性がない部活動もあり、教職員にとっても子どもたちにとっても最適な環境とはいえない状況である。そのため、生徒数に見合った部活動数に見直すとともに、活動の選択肢を広げていく必要性の双方を考慮しなければならない。令和4年度に教職員、保護者、児童生徒に対して部活動改革アンケートを行い、現在加入している部活動および今後やってみたい部活動等

について回答してもらい利用者目線での現状と課題を洗いだした。令和5年度から休日の部活動地域移行の試行実施期間として8種目において始まった。また、すでにクラブチームが主となって中体連の大会に出場してきた競技団体もある。今後、平日の地域移行を見据え、子どもたちが継続的にスポーツに親しむ機会を確保・充実のために近隣市町村との広域連携を進める。また県立津南中等教育学校との連携についても引き続き取り組んでいく。

津南町出生数の推移

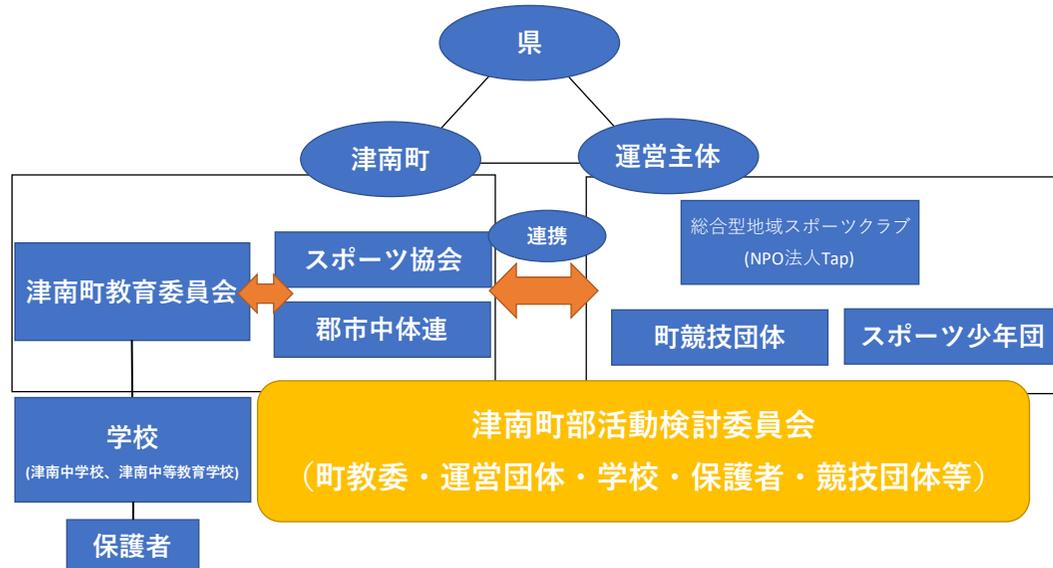


【課題】
今後も減少傾向は続いていくことが予想される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

学校・保護者・町内スポーツ団体をつなぐコーディネーター役として、津南町部活動検討委員会を開催し、部活動地域移行に関する認識を関係団体で共有する。また、学校と町内スポーツ団体の現状と課題を把握し、課題解決に向けて取り組んでいく。

年間の事業スケジュール

令和6年 4月	保護者説明会（入学説明会）
令和6年 5月	入部説明会・体験入部
令和6年 5月	部活動参加希望調査 休日の部活動地域移行参加希望調査
令和6年 5月	スポーツ団体へ参加希望者の通知
令和6年5月～	各クラブ活動の実施
令和6年 7月	第1回津南町部活動検討委員会
令和6年12月	第2回津南町部活動検討委員会
令和7年 3月	津南中学校、津南中等教育学校 入学説明会において生徒・保護者 への説明会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	8クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		6クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	18人	全体の運営スタッフ数	18人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
津南町スポーツ少年団	スポーツ少年団	バスケットボール スキー（クロカン・アルペン） バドミントン	月1-2回	種目による	中学1年生～3年生	5月～3月	津南町総合センターほか	各2人	1人	年会費10,000円程度	中体連部活動地域クラブ
津南町スポーツ協会	スポーツ協会	陸上 バレーボール ソフトテニス 卓球	月1-2回	種目による	中学1年生～3年生	5月～3月	津南町総合センターほか	各2人	1人	年会費10,000円程度	部活動
Tap	NPO法人	水泳	月1回	17:30-18:30	中学1年生～3年生	5月～3月	クアハウス津南	2人	1人	月会費5,300円	実績なし

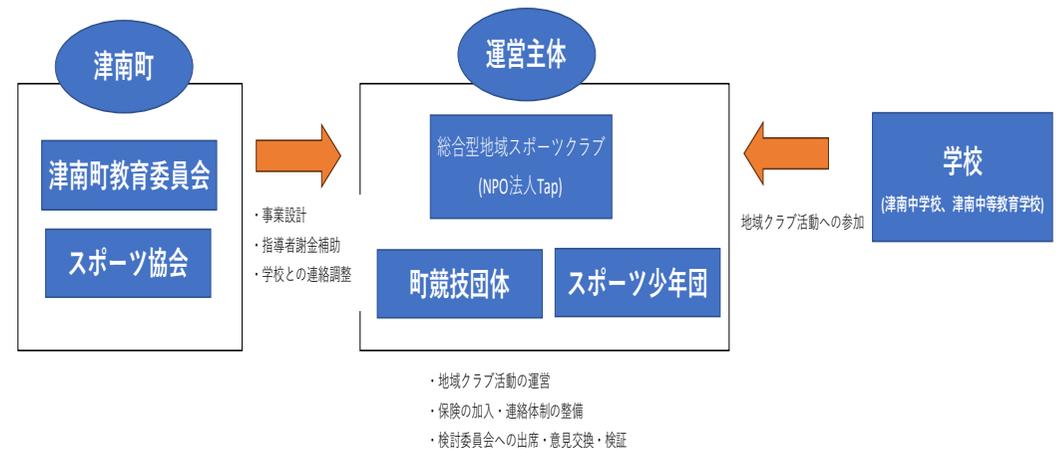
2.実証内容と成果

主な取組例

●地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール、スキー（クロカン・アルペン）、バドミントン、陸上、水泳、バレーボール、ソフトテニス
運営団体名	津南町スポーツ少年団 ほか
期間と日数	5月～3月 月1-2回程度
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導者
活動場所	町内公共施設
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	各種目：10,000円程度
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：1,000円/年（手数料込） 指導者1人あたり：2,050円/年（手数料込）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●津南町教育委員会

学校・保護者・町内スポーツ団体をつなぐコーディネーター。

学校と町内スポーツ団体の現状と課題を把握し、課題解決に向けて取り組む。

●指導者 各種目2名

津南町教育委員会と連携を図りながら、子どもたちを指導し安全に目標達成をサポートする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

津南町は公立の中学校が1校であるため、教育委員会の担当職員がコーディネーターとして運営団体・実施主体と中学校の連絡調整を行う。また、部活動検討委員会を定期的を開催し、団体ごとの進捗状況や課題を確認し、公立中学校および県立の津南中等教育学校とも情報共有や意見交換を実施する。

取組の成果

- ・令和6年7月と12月に部活動検討委員会を実施し、地域移行受け入れ団体・スポーツ関係団体・県立中等教育学校を含む町内中学校・PTA担当者が集まり情報交換や課題の確認をすることができた。令和6年度から地域移行に取り組む種目が1種目増え、9種目すべてにおいて課題や進捗状況に差はあるが地域に移行した活動を実施することができた。休日の部活動地域移行の完全実施に向けて現状と課題を確認することができた。津南中学校と県立津南中等教育学校の現状や考え方も共有することができた。
- ・また、長期的な視点において平日における部活動のあり方や国の方針を伝えることで、各クラブが今後どうしていくべきかを考えるきっかけとなった。
- ・保護者・生徒への説明会を開催し、実際にクラブに参加して活動することで現状と今後への理解を進めることができた。
- ・十日町市の担当者との情報交換をすることができた。十日町市の現状と今後の方針、また津南町との連携の可能性について具体的な意見交換することができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・津南町部活動検討委員会の開催
- ・中学校において保護者・生徒への説明会の実施
- ・各クラブの参加案内・取りまとめ
- ・広域連携にむけて近隣自治体の担当者との情報交換

今後の課題と対応方針

部活動検討委員会については今後も定期的を開催し、関係団体で情報共有を図っていきたい。今後、平日の地域移行を見据えた際には、休日の地域移行とは異なる課題も多くあることが予想される。解決方法として近隣市町村との連携を探っていかなくてはならない。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度においても継続して津南町部活動検討委員会を開催し、関係団体が集まり情報共有することができた。スポーツ9種目において進捗状況は異なるが、令和8年度の休日の部活動地域移行の完全実施に向けてそれぞれの立場で課題を確認することもできた。令和7年度以降も定期的に継続していく。また、休日の地域移行の先にある平日の地域移行を見据えて各クラブの在り方を考えるきっかけにもなった。

また、各クラブが積極的に取り組みを進めていけるように町がコーディネーターとして国・県の方針や他の自治体の現状を伝えることができた。

生徒・保護者への説明会を開催し実際に活動が始まることで地域においても現状への理解が広がってきている。その一方で活動が進んでいくことで取り組みに対する疑問や不安の声に対して、町がコーディネーターとしてしっかりと受け止めていかなくてはならない。

●成果の評価

部活動検討委員会を開催することによって、各クラブの進捗状況や課題を確認することができた。また、各クラブに今後の部活動地域移行に関する国の方針等を伝えることによって、各クラブが今度どうしていくべきか考えるきっかけとなった。

保護者・生徒への説明会を開催することで部活動地域移行に対する理解を進めることができた。

近隣自治体との情報交換をし、今後の方針・取り組みについて確認することができた。

●今後に向けて

部活動検討委員会・生徒・保護者への説明会は関係団体との情報共有や実際に活動する生徒・保護者の生の声を聞く機会として継続していきたい。

各クラブの進捗状況は異なるが休日の地域移行について実施している。進捗が遅いクラブや課題に対しては町が積極的にサポートしていきたい。

また、今後平日の地域移行を見据えて近隣市町村との連携を図っていきたい。近隣市町村との連携の際に課題として想定されるのが、練習場所が遠方になることによる保護者の送迎の負担である。送迎の負担によって部活動を諦めてしまう生徒がでないように対応を検討していく必要がある。

さらに、津南町には県立津南中等教育学校もあるので、学校の事情等も確認をしながら一緒に取り組みを進めていく。

参加者の声

●参加者の声

中学2年生（バドミントン）

学校にバドミントン部はないけど、クラブチームで練習して大会にも出場することができて嬉しい。いい結果をだせるように練習をがんばりたい。

中学2年生（バスケットボール）

津南中学校だけだと人数が少ないが、十日町と一緒にチームに入れてもらって新しい仲間も増えて活動が楽しい。大会でも勝てるようにがんばりたい。

指導者（バスケットボール）

様々な学校からの選手がおり、人間性やマナーを高めるようにも指導している。そうところが成長しないと技術も向上しない。人間力も磨いていきたい。

指導者（陸上）

現在は休日において月に1回程度の活動であるので、毎回イベントのような感覚なので、回数を増やして定期的に活動していきたい。

保護者

活動が充実しているクラブとそうでないところの差が大きいような気がする。どのクラブも子どもたちのためにがんばってもらいたい。

保護者

十日町のチームに入れてもらって多くの人数で活動することができてありがたい。いままでは津南中学校での活動であったが、十日町での活動のため送迎は少し負担である。

指導者（スキー）

津南中等教育学校からも参加してしてくれる生徒や町外からの参加者も増えて嬉しい。他のクラブにも中等から参加してくれると人数も増えて活動が充実する。

指導者（バレーボール）

クラブチームに移行しても津南町は中学校が1校であるため、人数が増えるわけではないのでチームスポーツは維持が難しい。指導者も少なく高齢化もしているので、今後いつまで継続していけるか不安もある。

2.実証内容と成果③

参考資料

【令和6年度津南町休日の地域移行種目の概要】

令和6年度津南町地域クラブ(休日の部活動地域移行)リスト		津南町スポーツ少年団				津南ランニングファン(TRF)
活動名		津南町スポーツ少年団				津南ランニングファン(TRF)
種目	バスケットボール	スキー(クロカン)	スキー(アルペン)	バドミントン	陸上(楽しむ)	
運営団体	津南町バスケットボール協会	津南スキークラブクロカン部	津南スキークラブアルペン部	SNOW-BIRD(スボ少)	津南町陸上競技協会	
活動方針	バスケットボールを楽しもう! バスケットボールを知ろう!	スポーツ少年団に入って活動します!	スポーツ少年団に入って活動します!	心と身体を育てて大人への階段へ一歩踏み出そう!	走って津南を知ろう!	
対象	津南中・中等前期生の部活動生徒または部活外の希望者	津南中・津南中 中等前期生の生徒(ほかの希望者は要相談)	津南中・中等の生徒	バドミントンスポーツ少年団加入者	誰でも参加可能	
練習日 会場等	月1回第3土曜日 16:00~18:00 津南町総合センター体育館	シーズン中の土日祝日 8:30~15:30 マウンテンパーク津南スキー場 *オフシーズンの随時(随時実施)	シーズン中の土日祝日 8:30~15:30 マウンテンパーク津南スキー場 *オフシーズンの随時(随時実施)	週4回 15:00~18:00(月、水) 20:30~21:30(日、木、スボ少後) 津南町総合センター体育館	月2回毎月第2木・土曜日 木曜18:30~19:30 土曜9:00~11:00 木曜中津川運動公園 土曜各地域	
移動手段	各自	各自	各自	各自	各自	
大会参加	大会参加は学校単位が基本	スボ少として計画する大会に参加(中体連大会は各学校対応)	大会参加は学校単位が基本	地域クラブとして中体連大会に参加	年1回ローカル大会出場	
経費	検討中 (別途スポーツ保険料)	6,200円/年(スボ少団費)	8,000円/年(スボ少団費)	12,000円/年(スボ少団費) 3,000円/月(クラブ費) +大会参加費	2,000~3,000円/月+保険代	
その他		スボ少加入が条件	スボ少加入が条件 近隣チームとの合同練習あり	スボ少加入が条件	競技志向は他へ	
活動名	Tapスイミングスクール	津南ジュニアバレーボールクラブ	津南ソフトテニスクラブ	津南ジュニア卓球クラブ		
種目	水泳	バレーボール	ソフトテニス	卓球		
運営団体	NPO法人Tap	津南ジュニアバレーボールクラブ	津南ソフトテニスクラブ	TPC		
活動方針	元気な心と身体を育てよう! 水泳を楽しもう!	バレーボールに親しみ 楽しもう! 自分を表現しよう! 強い絆で結ばれよう!	ソフトテニス をまくなろう!	技術力を高め卓球を楽しもう!		
対象	津南中・中等前期生の生徒 スイミングスクール参加者	津南中・中等前期生の部活動生徒 または部活外の希望者	津南中ソフトテニス部生徒 部活外の希望者(高校生も可)	津南中・中等前期生の部活動生徒		
練習日 会場等	選手コース(週5回) 17:30~19:30(月、火、水、金) 8:00~10:00または9:30~11:30(土) 週1回コース/週2回コース 17:30~18:30(月、火、水、木) 18:30~19:30(金) クアハウス津南	月1回 地域の実情に応じて推進 8:30~11:30 津南中体育館	月2回、土日どちらか 8:30~11:30 夏場 津南中または中津川運動公園 冬場 津南中または津南町総合センター	第4土曜日13:00~16:00 津南町総合センター体育館		
移動手段	各自	各自	各自	各自		
大会参加	R6年度 大会参加は学校単位が基本	大会参加は学校単位が基本	大会参加は学校単位が基本	大会参加は学校単位が基本		
経費	選手コース 8,100円/月 週1回コース 5,300円/月 週2回コース 7,000円/月 +年間登録料2,200円(保険代含む)	検討中	検討中	200円/1回+保険料		
その他	町外生徒含む		今後十日町との連携あり	十日町卓球協会との連携計画 練習日等の変更の可能性あり 部チームと合同練習の可能性あり 平日もTPC会員として練習可能		

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バスケットボール（十日町市との広域連携）】



【バスケットボール（十日町市との広域連携）】



【クロスカンリースキー（大会参加の様子）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3年

受け皿団体や
指導者の選
定・依頼

令和4年

部活動地域移
行検討委員会

部活動改革
アンケート

生徒・保護者への
説明会

令和5年

地域クラブ活動
の開始

令和6年

地域クラブ活動
の拡大

●受け皿団体や指導者選定・依頼

津南町において部活動の地域移行を実施するために、指導者確保の観点からスポーツ関係団体、スポーツ少年団からの協力を得ることができた。

●生徒・保護者への説明会

津南中学校および県立津南中等教育学校の入学説明会において生徒と保護者を対象に部活動地域移行の今後の進め方を説明し意見交換する機会となった。学校から説明会の場を提供してもらうことで多くの生徒・保護者と対面で話をする事ができた。

●部活動地域移行検討委員会

令和4年度から検討委員会を定期的
に実施。当初は休日の試行実施から
本格実施に向けての検討会であった。
実施にあたっての課題や進捗状況、
他の自治体の取り組みについて情報
共有する機会となっている。
最近では平日の地域移行を見据えて
各クラブがどのように取り組んでいくか
考える契機となっている。

●部活動改革アンケート

部活動地域移行を進めるための参考
とするため、教職員・小学生・中学生
・保護者を対象にアンケートを実施した。
アンケートはインターネットを活用し、
学校に協力を依頼し1人1台端末
を利用して学校で回答してもらった。
結果として高い回答率となり今後の
参考とすることができた。

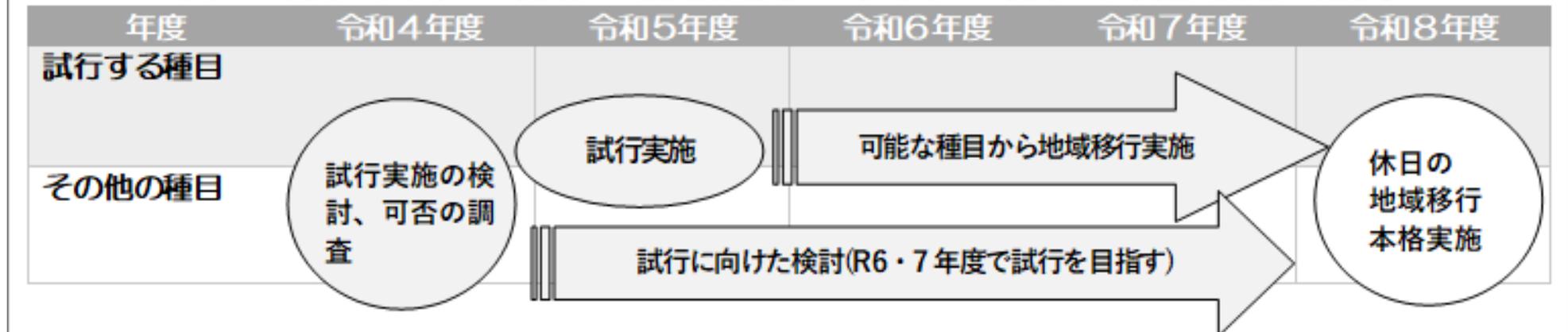
●地域クラブ活動の拡大

令和5年度は8クラブから施行実施をスタートしたが、令和6年度からは1クラブ増え9クラブでの活動となった。年度途中からは平日の地域移行も見据え十日町市と連携するクラブもでてきた。その一方で進捗の遅いクラブもあるので、町がコーディネーターとして課題を把握しサポートしていく。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

休日の部活動地域移行実施に向けてのスケジュール

令和5年度から令和7年度までを試行期間とし、令和8年度から本格実施を目指す。



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

新潟県 関川村

自治体名 : 新潟県関川村

担当課名 : 関川村教育委員会教育課

電話番号 : 0254-64-1491

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	299.61 km ²
人口	4,668人 (令和7年1月末現在)
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	99人 (令和6年5月1日現在)
部活動数	7部活 (令和6年5月1日現在)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在の村の人口は左記のとおりで毎年約150人ずつ減少している。小・中とも1校ずつで現小1児童が中学校に入学する頃には中学生は70名台になると予想しており、大人も子どもも激減傾向が続いている。

中学校の部活動は、R6年度で野球部が募集停止、ソフトテニス部も部員数が減少し活動が制限されている。

このように、地域クラブを設立しても村単独では将来的には継続が難しいと考えている。

しかし、在籍している児童生徒やその保護者の期待に可能な限り応えらるとともに、生徒や村民が

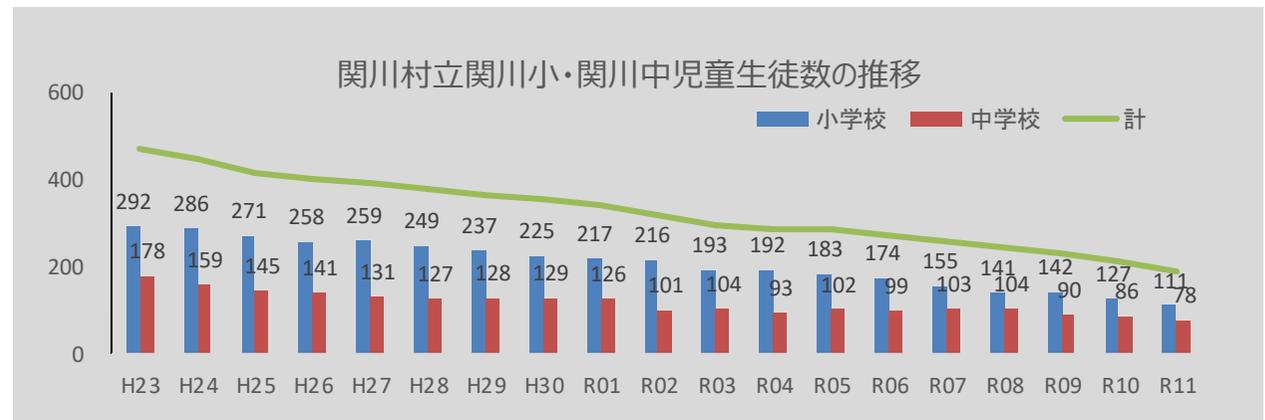
持っている多様な関心や個性を発揮する場として、さらには年代を越えた交流・健康増進の場として地域クラブを立ち上げることにした。

<主な課題>

1 諸々の人材不足への対応と継続的なクラブ運営（今後の生徒数減への対応、指導者確保及び運営団体としての教育課職員体制）

2 保護者負担への対策（少人数のため参加費等が高額になる可能性あり。）

3 隣接する地域クラブとの連携体制。（ニーズのあるクラブへの対応、指導者の資質向上を図る研修の在り方）

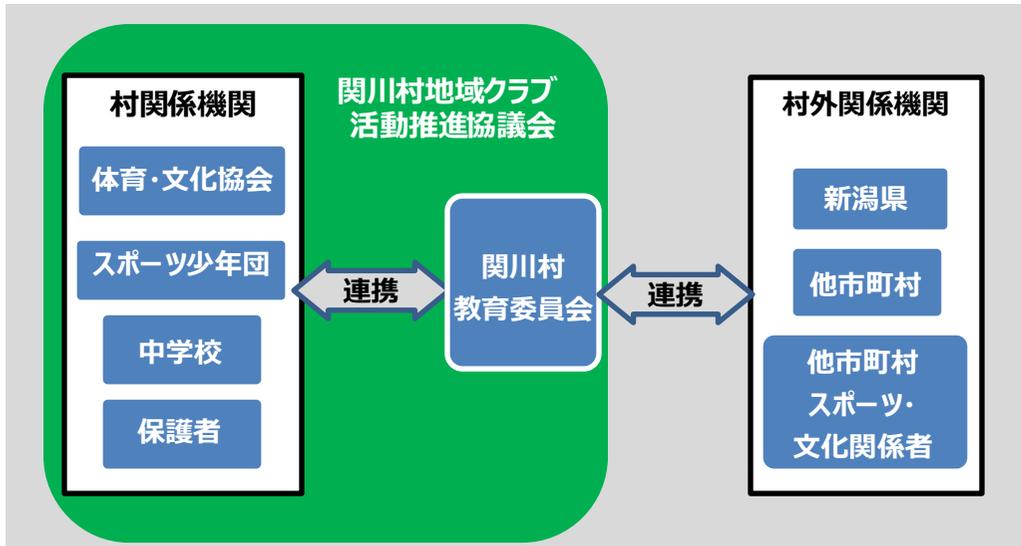


出典：学校基本調査及び村の年間出生数より

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・生涯学習班…会計・経理、首長部局との連携、村内関係団体との連携、全体統括
- ・学校教育班…困窮世帯への対応、規則等整備、中学生の文化活動環境整備
- ・教育指導員…部活動改革の主担当、総括コーディネーターとしての連絡、調整、企画

◎首長部局

- ・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	小・中PTA総会等で概要説明 小・中教職員対象 概要説明
令和6年5月	第1回推進協議会開催
令和6年7月	関係者合同研修会（第2回協議会）開催
令和6年8月	村広報誌に概要を掲載
令和6年9月	児童生徒への概要説明 各クラブ試行開始 アンケート実施（生徒、保護者）
令和6年10月	第3回協議会開催
令和6年11月	保護者説明会（第4回協議会）開催
令和7年1月	第5回協議会開催
令和7年2月	第6回協議会開催
令和7年3月	指導者研修会開催 保護者説明会開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	4クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4クラブ（4部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	6人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
関川BBC U15	関川村教育課	バスケットボール	毎月 4～7回 (土)(日)	・8:30-12:00 ・8:00-15:00	3年0人 2年6人 1年10人	9月下旬～ (独自に4月から活動)	関川中体育館	4人	2人	年会費 900円	中体連：部活動 その他：部活動 又は地域クラブ
関川バレーボールクラブ(仮)	関川村教育課	バレーボール	11月1回 2月1回	8:30-11:30	3年0人 2年6人 1年6人	9月下旬～	関川中体育館	1人	1人	なし	中体連：部活動 その他：部活動
せきかわ TTCクラブ(仮)	関川村教育課	卓球	9月 1回 12月 1回 1月 1回	8:20-11:20	3年0人 2年4人 1年3人	9月下旬～	関川中多目的室	1～3人	1人	なし	中体連：部活動 その他：部活動
関川柔道クラブ(仮)	関川村教育課	柔道	0回 (指導者が確定せず部活動指導員が指導したため)	8:30-11:30	3年0人 2年0人 1年3人	9月下旬～	関川中柔道場	0人	1人	なし	中体連：部活動 その他：部活動

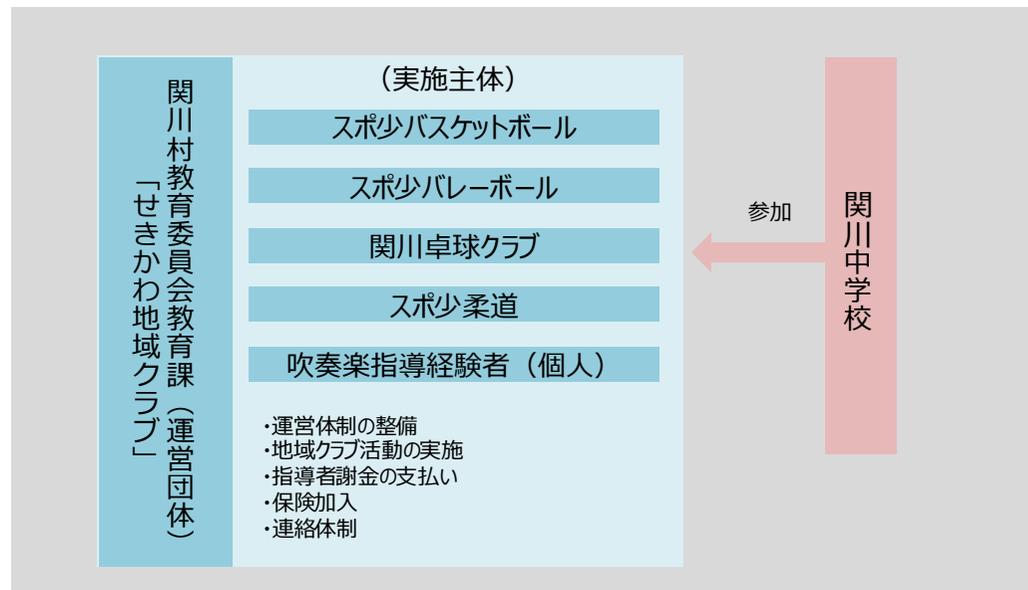
③その他、体験会やイベント等の開催実績 なし

主な取組例

● 関川B B C U15クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営団体名	関川村教育委員会教育課
期間と日数	9月21日～1月25日 月5回程度(など)
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導者
活動場所	関川中学校
主な移動手段	徒歩、保護者(自家用車)の送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	900円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり:800円/年

● 運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：活動における管理者として、指導者への連絡や調整、運営団体、学校、近隣クラブ、保護者との連携を行う
- 主任指導者 1名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 運営補助者
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

(1) 取組の概要

○総括コーディネーターを配置し、関係各所との連絡調整、指導者・実施主体の整備、確保

○協議会の設置

(2) 自治体にける現状と課題との関係性

○協議会を数回開催し、課題の検討、情報共有する。

○総合型地域スポーツクラブがないのでスポ少、指導経験者等を実施主体として確保する。

取組の成果

○元中学校長で、村教育課会計年度職員を総括コーディネーターに配置したことにより、運営団体と関係各所との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○運営団体である村教育課職員のネットワークを最大限活用し、地域指導者を3クラブ合計11名確保することが出来た。また、元中学校教員の部活動指導員2名も今後地域指導者として引き続き指導にあたってくれることになった。

○村スポーツ協会等、村内関係組織・団体からの代表者による協議会を組織することができた。そこでは、5回にわたり現状の確認と課題の整理し今後の方向性を協議することができた。

○運営団体内部の役割や協議・相談体制を確認した。

○協議会設置要綱、推進計画、地域クラブ活動規約等の整備を進めた。

各クラブ参加生徒数と指導者数

	バスケ	バレー	卓球	柔道	計
3年	0	0	0	0	0
2年	6	6	4	0	16
1年	10	6	3	3	22
計	16	12	7	3	38
指導者	4	4	3	0	11
部活動指導員	0	1	0	1	2

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・随時、各クラブの地域指導者と面談するとともに学校職員と連携した。
- ・協議会の日程を調整し、5回実施した。また、関係者合同研修会2回、保護者説明会2回の企画・運営の中心を担った。
- ・児童生徒への説明、各種アンケート、県や近隣自治体との連携した。

今後の課題と対応方針

- 柔道クラブについて、地域指導者候補数名と交渉したが、1月末までには了承を得ることが出来なかった。引き続き見守り等の業務を限定して依頼していく。なお、生徒の活動を保障するために部活動指導員が休日の指導に当たった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

(1) 取組の概要

- 県に設置される人材バンクの活用
- 関係各所との連携
- 教職員の活用
- 指導者の資質向上の促進

(2)自治体における現状・課題との関係性

- 県に設置される人材バンクを活用し、指導者を確保する。
- 体育協会、スポーツ少年団、その他関係者と連携し、指導者を確保する。
- 教職員の意向を調査し、意欲ある者を活用する。
- 指導者の資質向上のため、各種研修会の受講や資格取得の促進を行う。

取組の成果

- 村スポ少指導者、村スポーツ協会との連携・協議・理解により県人材バンクを活用する必要はなかった。
- 兼職兼業に係る様式、手続きを簡略化し負担軽減を図るとともに教職員に周知した。
- 学校と連携して兼職兼業についての意向調査を実施した。今年度は学校部活動を行うため申請者はいなかったが、R7年度は1名の希望職員がいる。
- 村のスポーツ指導者資格取得補助金制度を活用するため規約改正を進めている。
- 協議会会長と総括コーディネーターが県スポーツ協会主催のハラスメント予防研修に参加し、次年度に生かすことにした。

指導者研修の内容

- 「せきかわ地域クラブ発足 関係者合同研修会」
- ・ねらい 地域移行に係る関係者が一堂に集まり、現状を確認したり先行事例に学んだりすることを通して、課題等を整理するとともに地域クラブの必要性等の理解を図る。
- ・講師、発表者 ①県保健体育課部活動改革担当、②村スポ少バスケット指導者代表、③前村上市立村上東中サッカー部顧問

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 7月11日 ・開催回数： 1回
- ・会場：村農村文化交流センター・参加人数： 30人

受講者の声

- ・スポーツを続けられる環境を絶やしたくないと思った。
- ・いよいよスタートだな、というのが第一印象。
- ・地域の枠を越えて子供の選択肢を広げる必要もある。

今後の課題と対応方針

- R7.3月にAED使用方法等救急対応研修会を実施する。また、次年度5月には熱中症予防の研修会を開催する予定。
- 資格取得など村単独での研修会開催が困難なため、隣接自治体やクラブとの連携をより一層図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- (1) 取組の概要
・体育協会、スポーツ少年団等の連携
- (2) 自治体における現状・課題との関係性
・体育協会、スポーツ少年団等からの指導者派遣の連携をする。

取組の成果

- 地域クラブ推進協議会のメンバーには、スポーツ協会長（年度途中で体育協会から改称）、文化協会長、スポーツ少年団長、小・中PTA代表等から参画してもらうことができた。
- 当初は、指導者の確保に困難な状況が予想されたが、様々なネットワークを生かした声掛け、近隣自治体の進捗状況や県の取組の情報等により、スポ少指導者等の関係者の機運が醸成され、地域指導者として委嘱することができた。
- 中学校の管理職、部活動担当者、各部の顧問と数回にわたり懇談・協議した。その中では顧問の悩みや疑問点を聞いたり学校の方針との連携等を確認することが出来た。特に教務主任と日程調整を頻繁に行うことで生徒への説明時間を確保することが出来た。

関川村地域クラブ推進協議会

- 1 スポーツ協会会長
- 2 文化協会会長
- 3 スポーツ少年団団長
- 4 小学校6学年PTA代表
- 5 中学校PTA会長
- 6 中学校長
- 7 中学校部活動担当主任

今後の課題と対応方針

- ソフトテニスクラブの指導者候補であるスポ少指導者とは、地域指導者として依頼・協議したが、引き受けていただくことができなかった。その後、総括コーディネーターが保護者に事情を説明し納得してもらうとともに、保護者と一緒に隣接自治体のソフトテニスクラブを訪問。指導者代表と面談した結果、選択肢の一つとして保護者と生徒に示すことができた。
 - 柔道に関しては、部活動指導員が今後も地域指導者として柔道クラブの指導にあたってくれることになった。その後、部活動指導員や総括コーディネーターがスポ少指導者にも地域指導者の依頼したが現在のところ承諾を受けていない。今後は、練習の見守りを依頼していく。
- なお、今年度は生徒の活動確保のために、休日の練習等には部活動指導員が指導にあたった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- (1) 取組の概要
・他市町村との連携。
- (2) 自治体における現状・課題との関係性
・指導者不足、参加者数不足等により、村単独での地域スポーツクラブの運営が難しい場合、他市町村と連携する。

取組の成果

- 在籍している生徒の実態や保護者等の負担を考慮して、今ある中学校の部活動を、村民一人一人が活躍する場として位置付け総ぐるみで支えることを基本方針に掲げて推進することができた。
- 指導者が確保できなかったソフトテニスについては、総括コーディネーターが保護者とともに隣接自治体のクラブを実際に見学に行った。そこでは指導者代表と面談し、保護者と生徒に選択肢を提示することができた。
- 県が開催する研修会等に推進協議会長等も参加し、交流したり情報を得たりすることができた。
- 隣接する自治体の陸上クラブ説明会に総括コーディネーターが参加。情報を得ることができた。
- 地域スポーツクラブ活動アドバイザー制度を活用。保護者を対象に講演会を実施し、「地域移行を契機とした新しいカタチの創造」に理解を深めることができた。

今後の課題と対応方針

- 今後ますます人口減、少子化加速傾向にあるため、柔軟に方針やクラブの継続について見直す。
- より一層、近隣自治体との連携を深める。特に、村内にはない競技種目の情報提供、指導者の研修や交流に力点を置く。

受講者の声

- ・講演は大変分かりやすく聞けました。
- ・ワクワクするようなお話でした。「子供たちが夢中になれることを！！」この言葉が胸に刺さりました。保護者として協力できることはやっていきたいです。
- ・だいぶ理解できました。
- ・分からないことがいっぱいでしたが、話を聞いてよかったです。
- ・理想的なお話。行政が直接関与する当村は違った進め方をしてもよいのではないか。

関川中学校1, 2年生保護者対象アンケート (令和6年10月実施)

Q 休日の地域クラブで不安なことは何ですか。 (%)	
地域クラブの友達とより良い関係を築けるか	6.8
地域クラブに経費がかかる	20.5
地域クラブへの送迎が大変である	23.3
学校部活動と地域クラブで活動方針にズレがないか	13.7
学校部活動と地域クラブの両立ができるか	16.4
その他	2.7

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- (1) 取組の概要
 ・アンケートの実施。
- (2) 自治体における現状・課題との関係性
 ・児童、生徒、保護者へのアンケート調査を実施し、ニーズ等の把握を行う。

活動の詳細

児童生徒アンケート

属性と対象数	関川小学校 5, 6年生 5年34 6年34 合計68名 回収率 88.2%	属性と人数	関川中学校 1, 2年生 1年36 2年33 合計69名 回収率 82.6%
具体的な内容 (主な質問項目)	Q1 中学生になったら平日の学校部活動に入りたいと思っていますか。 Q2 入りたいと思っている学校部活動は何ですか。 Q3 休日の地域クラブに入りたいと思いますか。(選択) Q4 どの地域クラブに参加したいと思っていますか。 Q5 地域クラブに期待することは何ですか。 Q6 地域クラブで心配なことは何ですか。 Q7 地域クラブに参加したくない等の理由は何ですか。	具体的な内容	Q1 学校の部活動に所属していますか。 Q2 学校の部活動で感じている問題点は何ですか。(選択) Q3 休日地域クラブについてどう思いますか。(選択と理由の記述) Q4 地域クラブに参加したいと思っていますか。 Q5 地域クラブに期待することは何ですか。 Q6 地域クラブで心配なことは何ですか。 Q7 地域クラブに参加したくない等の理由は何ですか。
子供の声 (理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術、たいこ、野球があるとよい。 ● 入りたい学校部活動がない。 ● 休日は家族と過ごしたい。 ● ほかのことをしたい。時間がなさそう。 ● お金がかかる。 ● 学習に集中したい。 ● 分からない。 ● 特にない。 	子供の声 (理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒も専門的な人から教えてもらえるし、先生の負担も減ると思う。 ● 地域の人たちと交流できる。 ● 先生にとっては負担が減るが、生徒は入っても入らなくてもよくなり、曖昧な感じになってやりづらくなる。 ● まだ、やっていないから分からない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

- (1) 取組の概要
 ・アンケートの実施。
- (2) 自治体における現状・課題との関係性
 ・児童、生徒、保護者へのアンケート調査を実施し、ニーズ等の把握を行う。

活動の詳細

保護者アンケート（兄弟姉妹がいても個別に回答）

属性と対象数	具体的な内容 (主な質問項目)	保護者の声 (理由等)	属性と人数	具体的な内容	保護者の声 (理由等)
関川小学校 5, 6年生保護者 5年34 6年34 合計68名 回収率 63.2%	Q1 学校部活動で意義があると思うものは何ですか。(選択) Q2 地域クラブに参加させたいと思いますか。(選択) Q3 地域クラブに期待することは何ですか。(選択) Q4 地域クラブで不安なことは何ですか。(選択) Q5 地域クラブに係わって御意見があったら記述してください。	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブ自体は賛成だが、他地域では指導者の権力が強くなりすぎる傾向がある、と聞いている。 送迎等、保護者の負担を減らすために村の支援をお願いする。 平日放課後の活動にしてほしい。 一気に話が進んでいる。子供の意見をしっかり聞いてほしい。 少子化がますます進む中、急いで進めるよりも他市町村と合同で行う案も必要なのでは。 	関川中学校 1, 2年生保護者 1年36 2年33 合計69名 回収率 72.5%	Q1 学校部活動で意義があると思うものは何ですか。(選択) Q2 地域クラブに参加させたいと思いますか。(選択) Q3 地域クラブに期待することは何ですか。(選択) Q4 地域クラブで不安なことは何ですか。(選択) Q5 地域クラブに係わって御意見があったら記述してください。	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブが始動したら親の関わりをなくし全て行ってほしい。 子どもも親も振り回されているような気持ち。早く進めてほしい。 運動部以外も検討してほしい。 一気に進めると戸惑いもあるので段階的に進めることに賛成。 平日も地域移行した場合、練習時間時間帯の変更等によりやめってしまう生徒がいるのでは。 国、村の補助をお願いしたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実③

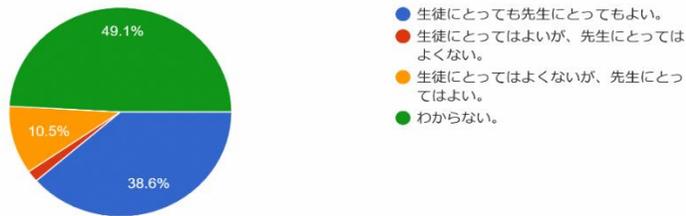
取組の成果

- 「送迎」が、保護者の心配なことの中で一番多い。このことから、可能な限り村内で地域クラブを設置、実施することにした。
- いずれのアンケートでも「分からない」が一番多い。このことから、休日の学校部活動に地域指導者が参加し、顧問と合同指導や分担して指導したりする「試行期間」をしばらくの間設定し、不安を軽減する必要がある。

今後の課題と対応方針

- 4クラブを村内で行い、休日の学校部活動と同じ交通手段で実施することとなった。ソフトテニス、実情を保護者に説明し、理解してもらった。
- バスケットは休日の活動に地域指導者が参加した。バレー、卓球はスポーツの大会との重複、学級閉鎖等があり、1～3回程度の試行となったが、指導者からは好評を得た。柔道は引き続き地域指導者を依頼していく。

Q7 【すべての生徒が答えてください。】 ...地域クラブについて、あなたはどのように思いますか。
 57件の回答

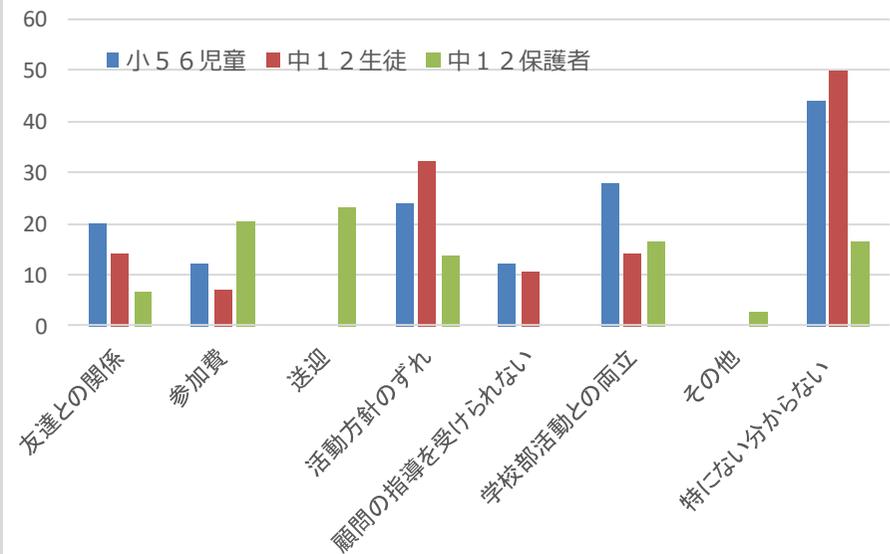


Q9 【すべての生徒が答えてください。】 ...予備調査ですので、今の考えを答えてください。
 57件の回答



出典：R6 関川中学校1, 2年生対象アンケートから

地域クラブで心配なこと。不安なこと



出典：R6 関川小5, 6年及び関川中1, 2年生、同保護者対象アンケートから

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

(1) 取組の概要

・学校開放の利活用

(2) 自治体における現状・課題との関係性

・既に学校開放制度があるので活用する。

取組の成果

- 通常の練習では、100%学校施設を活用した。
- 学校と協議し、しばらくの間は備品・用具等を共有することにした。



【関川中体育館でのバスケット練習】

今後の課題と対応方針

●今後も引き続き学校開放制度を利用するが、バスケット、バレー、卓球が体育館を使用するので、運営団体と各クラブとで協議し、体育館使用日の調整を図る必要がある。

●村民会館アリーナも中学校の近くにあり、使用料金も無料（村内在住者多数のため）なので、卓球部の主な練習会場とすることも検討していく。また、そのための手続・役割等を明確にしておく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○当村では令和5年度までを準備・研究期間とし、本年度から実証事業に参加、本格的に始動した。

○一部保護者や地域指導者から近隣自治体と比較して「遅れている！」という声が寄せられた。また、生徒の減少を見据え、「近隣のクラブとの合同を」という意見等、様々な考えがあり、それらをまとめることに時間を要した。

○一方で近隣自治体・クラブの情報がスポーツ関係者や保護者へ伝わったこと、さらには県保健体育課からの情報提供、地域移行アドバイザーの講演などから地域クラブの必要性や機運が高まり、村内関係者から協力・支援をいただくことができた。その結果、令和7年4月から4クラブが本格実施できることにつながった。

○前述したように、アンケートでは「分からない」と答える児童生徒が多く、地域クラブの「試行」を取り入れたのはよかったと考える。しかし、このことは情報提供・情報発信が不足していたことも要因と考える。

○実証事業に参加してよかった。特に予算面での支援は小規模自治体にとって大変ありがたかった。

●成果の評価

○関川中学校で活動している5つの運動部のうち、4つが9月下旬から村教育委員会教育課が関与する形で地域クラブの「試行」ができ、7年度4月からの本格実施につなげることができた。

●「試行」の段階で生徒への2回目のアンケートを実施し、生徒の評価や生徒から見た課題を明らかにする予定だったが、できなかった。また、情報提供・情報発信も少なかった。要因としては、事業推進の中核である総括コーディネーターが運営団体である村教育委員会教育課の会計年度任用職員であること及び他の教育課職員も、通常の業務を抱え、多忙であったことが挙げられる。小規模自治体であり総人口が減少する中で、次年度以降の職員の増加も見込めないことから、運営団体としての業務を遂行していくためには、他の業務の削減等も含めた全体の業務を見直す必要がある。

●今後に向けて

○令和7年4月からの休日地域クラブ本格実施に向けて、3月中に、指導者情報交換会・研修会、保護者説明会、生徒説明会、申込案内配布・集約、保険手続き、年会費・参加費の徴収等々の実施及び整備を進める。

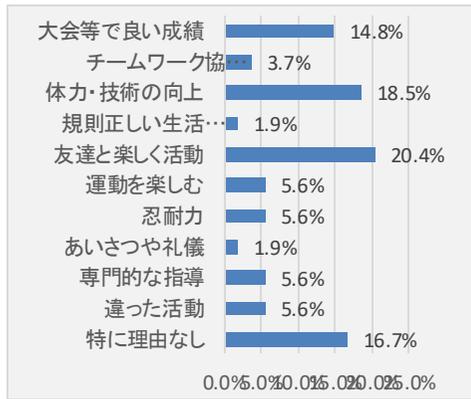
○令和7年度実証事業に参加し、令和6年度からの課題（柔道クラブの地域指導者確保、年会費・参加費の徴収を含めた独自財源の開発、指導者研修、情報発信他）と1年間のスケジュールの中で生じる課題への対応・検証を進める。

なお、7年度は吹奏楽部の地域展開の「試行」を始め、8年度から休日は全部活動を地域クラブ化する。

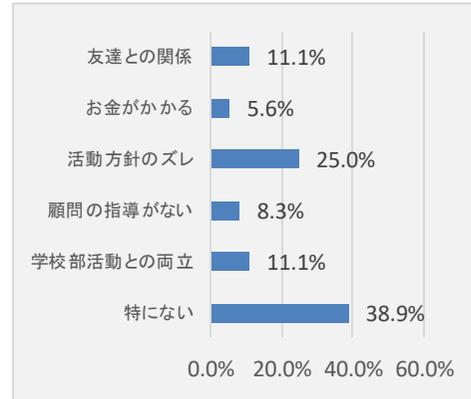
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

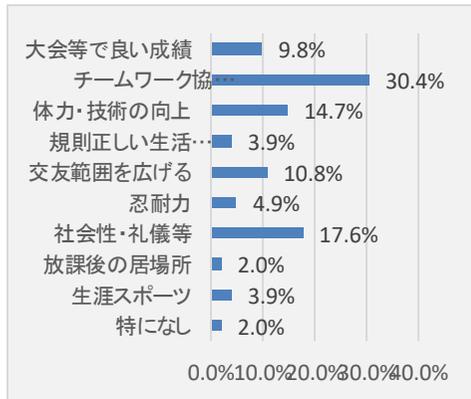
Q.中1、2年生徒対象 休日の地域クラブに期待することを選んでください。



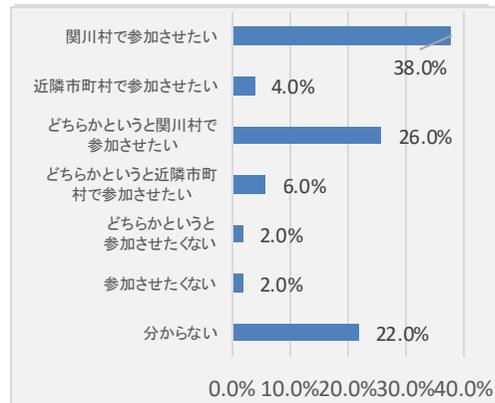
Q.中1、2年生徒対象 休日の地域クラブで不安なことを選んでください。



Q.中1、2年保護者対象 休日の地域クラブに期待することを選んでください。



Q.中1、2年保護者対象 お子さんを地域クラブに参加させたいですか。



●参加者の声

中学年生

- ・本格的な指導を受けられると思う。
- ・先生も生徒も休みやすい環境になるのでは。
- ・知識やできることが増えるといい。

中学年生

- ・まだ 地域移行していないから分からない。指導者についても分からない。
- ・日によって教える人が変わるとやりづらい気がする。でも、より上手になれるかもしれない。

保護者

- ・指導者や保護者に丸投げにならないようにしてほしい。
- ・オンブズマンなど部活動を監査する人が必要。
- ・村内に体育施設は揃っている。管理団体はないものか。
- ・関川村でできるように、と考えてくださる皆さんに感謝。

指導者

- ・教育委員会が運営団体で大丈夫なのか。
- ・その都度情報交換を行い早期に取り組みましょう。
- ・スポ少は謝金無。指導者間で不公平感が生じるのでは。
- ・高校生→大学生→社会人と連携していきたい。

広報資料

○村民への啓発・周知を図るため村発行の広報誌に2回掲載を依頼。

中学校の部活動の新たなステージ

休日部活動の段階的な地域移行・地域クラブ活動の試行

なぜ要むの？

地域クラブとは？

指導者とは？

今後の予定は？

たぐさん

広報せきかわ 2024・8月号 8

【村民への広報】

出典:広報せきかわ2024・8月号

保護者を対象に休日部活動の地域移行の講演会・説明会を開催

中学校休日部活動の地域移行に向けて、11月12日に村民会館大ホールで講演会・説明会が開かれました。

スポーツ庁アドバイザーでNPO法人希楽々の理事長・渡邊祐子さんの講演「学校部活動の地域移行を契機とした新しいカタチの創造」では、先進的な取組を進めていく中で生じた課題と対策について紹介していただきました。

坂爪地域コーディネーターからは、アンケートをふまえ、当村地域クラブの現状と今後の予定について報告・説明。バスケットボールの渡辺コーチからは、先行実践例の紹介もありました。

今後も、令和8年度からの完全な地域移行に向けて、環境整備を進めていきます。

【村民への広報】

出典:広報せきかわ2024・12月号

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バスケット練習を指導している地域指導者2名】



【保護者対象講演会・説明会 講師：渡邊優子アドバイザー】



【スポ少バスケットとの合同練習（平日クラブ活動の試行）】



【救急法講習会（3月）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

前教育長、教育課生涯学習班職員
スポ少指導者、学校、PTA

●経過

・R5スポーツ庁実証事業への参加を
検討。指導者を模索したが不調。
R5は時期尚早、不参加とし、R6の
参加を目標に推進計画の策定、推
進協議会メンバーの人选、受益者
負担額の基礎資料等の調査作成を
進めた。

●実施にあたって生じた課題

・地域指導者等の受け皿なし
・高額な保護者負担額（1回の練
習で約1,000円）
・担当職員の異動、教育課職員減

●ステークホルダー

学校（含部活動指導員）、PTA、児童生徒、スポーツ少年団指導者、スポーツ協会、現教育長、教育
課職員、総括コーディネーター

●経過

・R5年度末に推進計画策定及び総括コーディネーターを指名。R6年度当初から具体的取組み開始。
保護者、生徒教職員へ計画の概要説明。
・5月末第1回推進協議会開催（3月まで7回）。地域指導者の依頼。7月関係者合同研修会開催。
・児童生徒、保護者のアンケート実施。9月末「試行」開始。随時指導者等と打ち合わせを重ねる。
・11月保護者説明会 ・1月R7実証事業参加計画作成 ・3月指導者情報交換、保護者説明会

●実施にあたって生じた課題

・独自でクラブ化を進めたバスケと他の種目との温度差。・ソフトテニスクラブの設立断念とその対応。柔道
クラブの指導者不足と生徒の活動確保。・適切な保護者負担額・運営団体（教育課）の多忙化。

●実施内容、工夫した点等

・アンケート結果から、地域指導者が休日の学校部活動に段階的に参加・指導する「試行」を実施。

●今後の展開

・R7年度は休日のクラブ活動のほか、バスケ、バレーで週1回程度平日のクラブ活動を試行。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和6年度 地域クラブ活動推進協議会等の日程

月	推進協議会	事務局	地域クラブ活動、地域指導者	関川中、中体連	備考
4		各校PTAに概略説明		27PTA総会	
5	27(月)推進協議会①	8市町村担当者連絡会		※学校と事務局は随時連携	
6	28(月)? 推進協議会②	* 指導候補者に依頼 * 生徒、保護者、教職員アンケート	地域指導者の決定 設置地域 (スポーツ) クラブ決定	7(金)下越大会① 21(金)-22(土) # ②③ * 生徒への説明?	12(木)-13(木) 下越陸上
7	上旬: 推進協議会③ ? 講演会 (実践紹介)	* 地域指導者による学校部活動見学の計画、調整 * 地域クラブ活動生徒募集	上旬: 地域指導者会議① 地域指導者による学校部活動の見学	13(土)-15(月)祝県総体 20(土)or21(日)下越吹奏楽コンクール 24(水)1 学期終業式	広報掲載
8	下旬: 推進協議会④	? 下越地区担当者連絡会	下旬: 地域指導者会議②	27(火)2 学期始業式	合同会議?
9		村教委教育課が関与する地域クラブ活動開始	月1回程度の休日に地域指導者が顧問と一緒に指導 (期日は各部による)	14(土)体育祭 17(火)冬時程バス最終17:45	
10	下旬: 推進協議会⑤ (課題検討)		下旬: 地域指導者会議②		広報掲載
11		* 生徒、保護者、教職員アンケート	◎各部の実情に応じて進める (顧問と地域指導者の協議で)		
12	中旬: 推進協議会⑥ (成果や課題の集約 R7の方針)			7(土)or8(日)吹部アンテナブルコンテスト 24(火)2 学期終業式	
1				8(水)3 学期始業式	広報掲載
2			下旬: 地域指導者会議③		
3	中旬: 推進協議会⑦ (R7の方針)	* R7地域クラブ活動生徒募集		4(火)卒業式 24(月)3 学期終業式	広報掲載

出典: 第1回関川村地域クラブ活動推進協議会要項から